ThinkVantage

System Update ソリューション・デプロイメント・ガイド

更新: 2010 年 10 月

ThinkVantage

System Update ソリューション・デプロイメント・ガイド

更新: 2010 年 10 月

注：本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、91 ページの 付録 B『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第四版 (2010 年 10 月)

目次

付録 A. コマンド・ライン・パラメーター 77

付録 B. 特記事項 91

序文

本書に記載されている情報は、ThinkVantage® System Update プログラム (以降、System Update と呼びます)、Update Retriever プログラム (以降、Update Retriever と呼びます)、または Thin Installer プログラム (以降、Thin Installer と呼びます) で作業するコンピューターのサポート情報を記載しています。

System Update は、システムを最新に維持するために役立つプログラムです。Update Retriever は、企業規模の更新処理のカスタマイズに使用する管理プログラムです。Thin Installer は軽量バージョンの System Update であり、Thin Installer にインストールは必要ありません。またレジストリ キーは作成されず、サービスもありません。

本書は、IT 管理者、または更新を企業の PC にデプロイする担当者を対象としています。ご提案またはコメントは、Lenovo® 認定担当者にご連絡ください。本書は定期的に更新されます。最新の資料については以下の Lenovo Web サイトで確認できます。
http://www.lenovo.com/thinkvantage。

第 1 章 概要

このデプロイメント・ガイドで解説されているプログラムは、System Update、Update Retriever、および Thin Installer です。各プログラムの定義、更新処理、および各プログラムを要求どおりに構成する方法について説明します。インストール手順、アプリケーション構成、および、これらのプログラムを 異なる環境で使用する方法のベスト・プラクティスについても説明します。

System Update

System Update は、システム上のソフトウェアを最新に保つのに役立つプログラムです。Lenovo サーバーに保存された更新パッケージは、System Update を使用して Lenovo ヘルプ・センター Web サイトからダウンロード可能です。更新パッケージは、アプリケーション、デバイス・ドライバー、BIOS フラッシュ、およびソフトウェア更新で構成できます。System Update がリポジトリー・フォルダーに接続すると、使用しているコンピューターのマシン・タイプ、モデル番号、およびその他のシステム情報を自動的に認識し、入手可能な更新パッケージがご使用のシステムで必要かどうか判別します。System Update が表示するピック・リストから、更新パッケージを選択しダウンロードおよびインストールすることができます。更新パッケージは手動、または自動でインストールできます。ダウンロードした更新パッケージの据え置きも可能です。System Update を構成して、以下のロケーションの組み合わせから更新パッケージを検索し、ダウンロードすることができます。

- Lenovo ヘルプ・センター Web サイト
- ローカル・システムのリポジトリー・フォルダー
- ネットワーク共有リポジトリー・フォルダー

Update Retriever

Update Retriever は、更新パッケージを Lenovo ヘルプ・センター Web サイトで検索し、ネットワーク共有のリポジトリー・フォルダーにダウンロードするプログラムです。System Update を設定して、Lenovo ヘルプ・センター Web サイトではなくネットワーク共有のリポジトリー・フォルダーから更新パッケージを検索できます。Update Retriever を使用すると、以下のことに役立ちます。

- マシン・タイプ、言語、およびオペレーティング・システムに従って、特定の Lenovo システムの更新をダウンロードする
- 複数のマシン・タイプ用の更新パッケージをダウンロードする
- 更新パッケージをインポートする

Thin Installer

Thin Installer は System Update の軽量バージョンです。System Update とは異なり、Thin Installer にインストールは必要ありません。またレジストリ キーは作成されず、サービスもありません。Thin Installer を使用すると、ローカル・ハードディスク・ドライブ、ネットワーク共有、Web 共有、または外部メディア (CD、DVD、USB ハードディスク・ドライブなど) のリポジトリー・フォルダーから更新パッケージを検索できます。

更新処理を管理する

更新処理とは、更新パッケージを入手、構成、およびインストールする方法のことです。

更新処理を実行するには、以下のオプションのいずれかを使用します。

- System Update System Update のみを使用する場合、System Update はインターネット接続から Lenovo ヘルプ・センター Web サイトに接続し、更新パッケージを検索して、インストールに使用できる更新パッケージのリストを生成します。
- System Update および Update Retriever 企業環境で System Update および Update Retriever を使用する場合、Update Retriever は Lenovo ヘルプ・センター Web サイトの更新パッケージを検索し、更新パッケージをネットワーク共有フォルダーにダウンロードします。自社に関係がある更新コンテンツはカスタマイズできます。また、System Update を設定して、共有フォルダーの更新を取得し、クライアント・コンピューターへの更新のインストールを完了できます。
- Thin Installer および Update Retriever 企業環境で Thin Installer および Update Retriever を使用する場合、Update Retriever によって Lenovo ヘルプ・センター Web サイトの更新パッケージが検索され、更新パッケージがネットワーク共有フォルダーにダウンロードされます。自社に関係がある更新コンテンツはカスタマイズできます。また、Thin Installer は共有フォルダー上の更新を検索し、クライアント・コンピューターへの更新のインストールを完了します。

System Update

次の図は、System Update のみを使用した場合の Lenovo ヘルプ・センターからクライアント・コンピューターへの更新パッケージの経路を示しています。

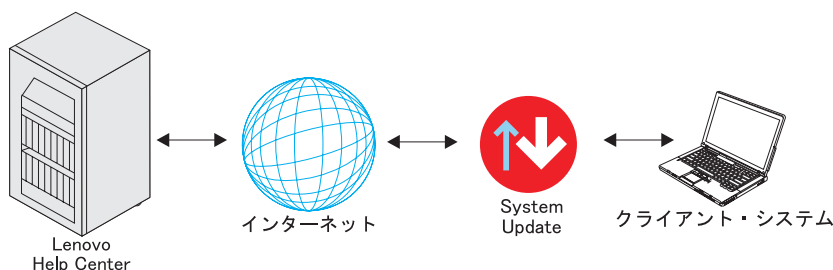



図 1. System Update のみを使用した更新処理

System Update および Update Retriever

複数のシステムがある企業環境では、管理者システムで Update Retriever を使用して、Lenovo ヘルプ・センターから更新パッケージをネットワーク共有またはローカル・システムのリポジトリー・フォルダーにダウンロードできます。クライアント・コンピューターで System Update を設定し、ネットワーク共有またはローカル・システムのリポジトリー・フォルダーから更新を取得できます。リポジトリー・フォルダーは更新パッケージの保存場所を提供します。これによりネットワーク経由で利用可能な更新を、より柔軟にコントロールすることができます。

更新パッケージの管理者システムへのダウンロード

次の図は、Update Retriever を使用した場合の Lenovo ヘルプ・センターからご使用の管理者システムへの更新パッケージの経路を示しています。

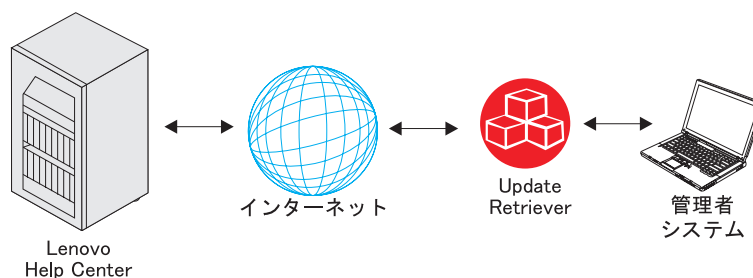



図 2. Lenovo ヘルプ・センターおよび管理者システム間の配信の経路

ネットワーク共有のリポジトリー・フォルダーからの更新の取得

次の図は、Update Retriever がインストールされた管理者システムから System Update がインストールされたクライアント・コンピューターへの更新パッケージが配信される経路を示しています。

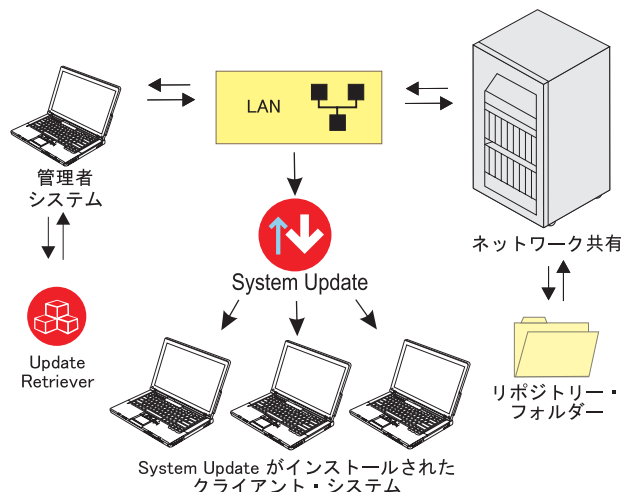



図 3. ローカル・エリア・ネットワーク上で更新パッケージが配信される経路

パッケージ保存用リポジトリー・ロケーションの構成方法の詳細については、15 ページの 第 3 章『設定』を参照してください。

更新パッケージのクライアント・コンピューターへのデプロイ

ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上でネットワーク共有を使用する代わりに、管理者システムなどのローカル・システムを使用して更新パッケージを保存できます。リポジトリー・フォルダーを作成しておけば、そのフォルダーをクライアント・コンピューターにデプロイできます。リポジトリー・フォルダーのデプロイによって、管理者システム上の Update Retriever を使用して更新パッケージをリポジトリー・フォルダーにダウンロードし、更新パッケージが保存されているフォルダーをクライアント・コンピューターにデプロイできます。クライアント・コンピューターで System Update を実行すると、System Update はユーザーがクライアント・コンピューターにデプロイしたフォルダーから更新を直接取得します。

次の図は、管理者システムからクライアント・コンピューターへと更新パッケージが配信される経路を示しています。

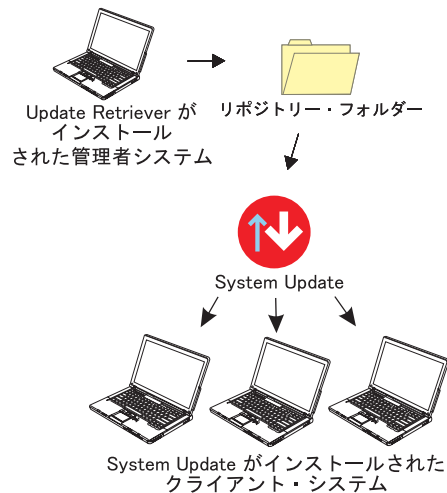



図 4. リポジトリー・フォルダーからクライアント・コンピューターへ更新パッケージが配信される経路

クライアント・コンピューター用の更新パッケージのカスタマイズ

クライアント・コンピューター用にカスタム更新パッケージを作成する必要がある企業の場合は、更新処理を管理するために System Update と Update Retriever の両方を使用します。管理者として Update Retriever を使用して、選択した更新パッケージを Lenovo ヘルプ・センターからネットワーク共有上のリポジトリー・フォルダーにダウンロードできます。次に Update Retriever を使用して、既存のパッケージを編集したり、新規パッケージをリポジトリー・フォルダーに作成できます。Update Retriever は、XML ディスクリプター・ファイルを使って、更新パッケージが関連する場合やインストール方法などを定義します。たとえば、XML ディスクリプター・ファイルを作成して、特定の更新のみをダウンロードし、インストール済みのソフトウェアのバージョンまたはシステム上に検出された既存のハードウェア・デバイスに応じて、クライアント・コンピューターにインストールすることができます。Update Retriever を使用してお客様の企業に適した更新パッケージをカスタマイズした後で、その更新パッケージを Update Retriever を使用してネットワーク共有上のリポジトリー・フォルダーにインポートします。

クライアント・コンピューター上で System Update を使用して、更新パッケージ用のネットワーク共有リポジトリー・フォルダーを検索します。次に、該当するパッケージをネットワーク共有リポジトリー・フォルダーからクライアント・コンピューターにダウンロードしてインストールできます。

次の図は、Update Retriever を使用して更新処理を管理する場合の Lenovo ヘルプ・センター、System Update、および Update Retriever 間の配信の経路を示しています。

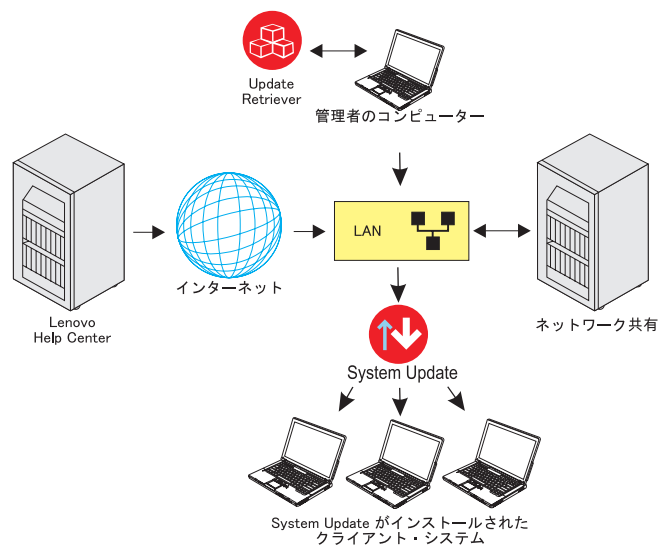



図 5. Update Retriever を使用した管理者により管理されるクライアント・コンピューターの更新処理

他社製システムでの System Update および Update Retriever の使用

System Update および Update Retriever は他社製システムにも利用できるように設計されています。他社製システムでは、Lenovo Help Center Web サイトを利用してパッケージをダウンロードしてインストールするように構成することはできません。System Update がインストールされた 他社製システムを使用する場合は、Update Retriever を使用して更新パッケージをご使用のネットワークまたはローカル・システムのリポジトリー・フォルダーにダウンロードし、System Update を使用してネットワークの更新パッケージを検索します。

第 2 章 インストール

この章では、System Update と Update Retriever のインストール手順、インストール要件、コンポーネント、および考慮事項について説明します。System Update と Update Retriever は次の Web サイトからダウンロードできます。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu

また、Lenovo サポート Web サイトから Thin Installer をダウンロードし、そのまま使用できます。Thin Installer にインストールは必要ありません。Thin Installer については、57 ページの 第 6 章『Thin Installer の作業』を参照してください。

インストール要件

System Update 4.x は、以下のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Microsoft® Windows® 7 Starter
- Windows 7 Business
- Windows 7 Home Basic
- Windows 7 Home Premium
- Windows 7 Ultimate
- Windows 7 Enterprise
- Windows 7 Professional

System Update 3.x は、以下のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Windows Vista®
- Windows XP Professional (Service Pack 2 以降)
- Windows 2000 Professional (Service Pack 4)

注：System Update は、更新パッケージがローカル・ネットワークのリポジトリーに保存されている場合にのみ、Windows 2003 オペレーティング・システムがインストールされたシステムをサポートします。Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続は Windows 2003 オペレーティング・システムではサポートされていません。

Update Retriever は、以下のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Windows 7 Starter
- Windows 7 Business
- Windows 7 Home Basic
- Windows 7 Home Premium
- Windows 7 Ultimate
- Windows 7 Enterprise
- Windows 7 Professional
- Windows Vista
- Windows XP Professional (32 ビットのみ)
- Windows XP Home (32 ビットのみ)
- Windows Server® 2003 Standard Edition

- Windows Server 2003 Enterprise Edition
- Windows Small Business Server 2003 Standard Edition (32 ビットのみ)
- Windows Small Business Server 2003 Premium Edition
- Windows Server 2003 R2 Standard
- Windows Server 2003 R2 Enterprise
- Windows Server 2008 Standard Edition
- Windows Server 2008 Standard (Hyper-V なし)
- Windows Server 2008 Enterprise
- Windows Server 2008 Enterprise (Hyper-V なし)
- Windows Server 2008 DataCenter
- Windows Server 2008 DataCenter (Hyper-V なし)
- Windows Web Server 2008

注：特記がない場合、サポートされるオペレーティング・システムは、32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの両方を指します。

.Net

System Update と Update Retriever には、Microsoft.NET Framework 1.1 Service Pack 1 以降が必要です (Microsoft .NET Framework 2.0 以降が推奨されます)。互換性がある .NET Framework のバージョンは、以下の Microsoft Web サイトからダウンロードできます。
http://update.microsoft.com/windowsupdate

インストール・コンポーネント

このセクションでは、System Update と Update Retriever のインストール・コンポーネントについて説明します。これらのプログラムは InstallShield ソフトウェア・ツールを使用してインストールします。

System Update の言語

次の表は、System Update の言語とそれに対応する LanguageOverride コードを示します。

表 1. System Update の言語コード

言語	ID	LanguageOverride コード
デンマーク語	1030	DA
オランダ語 (標準)	1043	NL
英語	1033	EN
フィンランド語	1035	FI
フランス語	1036	FR
ドイツ語	1031	DE
イタリア語	1040	IT
日本語	1041	JP
韓国語	1042	KO
ノルウェー語 (ブークモール)	1044	NO
ポルトガル語 (ブラジル)	1046	PT

表 1. System Update の言語コード (続き)

言語	ID	LanguageOverride コード
スペイン語	1034	ES
スウェーデン語	1053	SV
中国語 (簡体字)	2052	CHS
中国語 (繁体字)	1028	CHT

System Update は、すべての NLS (National Language Support) 言語パックをサポートします。通常の場合、System Update は **LanguageOverride** フィールドの言語パック・セットをロードします。つまり、起動時に、System Update は Windows レジストリーの **LanguageOverride** フィールドで LanguageOverride コードをチェックします。**LanguageOverride** フィールドの LanguageOverride コードが有効で、システムで言語パックが使用可能な場合、System Update は **LanguageOverride** フィールドに指定されている LanguageOverride コードに対応する言語パックをロードし、以降のセッションはその言語で表示します。

LanguageOverride フィールドのレジストリーの場所は、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update\LanguageOverride
```

次に、System Update が代替の NLS 言語パックをロードするシナリオについて説明します。

- **Windowsの「地域と言語のオプション」設定への言語パックのロードLanguageOverride** フィールドが空か、または無効な値が入っている場合、あるいは **LanguageOverride** フィールドに指定された値がシステムにインストールされていない場合、System Update は **「地域と言語オプション」**に設定されているオペレーティング・システムの LanguageOverride コードを取得します。System Update は **「地域と言語オプション」**に設定されている言語に対応する言語パックを正常にロードできた場合、以降のセッションはその言語で表示します。
- **DefaultLanguage フィールドに設定されている言語パックのロード「地域と言語のオプション」**に設定されている言語に対応する言語パックがシステムで使用できない場合、エンド・ユーザーが System Update インストーラーを使用してインストール中に言語を選択したときに、**DefaultLanguage** フィールドで設定したデフォルト言語の取得が System Update で試行されます。System Update は **DefaultLanguage** フィールドに設定されているデフォルト言語に対応する言語パックをロードし、以降のセッションはその言語で表示します。**DefaultLanguage** フィールドに設定されているデフォルト言語に対応する言語パックがシステム上にある場合、System Update はそのデフォルト言語パックをロードし、以降のセッションはその言語で表示します。

  DefaultLanguage フィールドのレジストリーの場所は、次のとおりです。

  ```
  HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update\DefaultLanguage
  ```

- **米国英語言語パックのロードDefaultLanguage** フィールドが空か、または無効な値が入っている場合、あるいは **DefaultLanguage** フィールドに設定されているデフォルト言語に対応する言語パックがシステム上にない場合、デフォルトの言語は使用されません。System Update は米国英語言語パックのロードを試みます。米国英語言語パックがシステム上にない場合、「System Update has found a critical problem and must close (System Update は重大な問題が見つかったため終了します)」というエラー・メッセージが表示されます。このエラー・メッセージは英語です。

Update Retriever の言語

次の表は、Update Retriever の言語とそれに対応する LanguageOverride コードを示します。

表 2. Update Retriever の言語コード

言語	ID	LanguageOverride コード
英語	1033	EN
フランス語	1036	FR
ドイツ語	1031	DE
日本語	1041	JP
中国語 (簡体字)	2052	CHS

LanguageOverride フィールドのレジストリーの場所は、次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\Update Retriever\LanguageOverride
```

インストールの注意点

System Update および Update Retriever は、独立したアプリケーションとしてインストールされ、すべての構成オプションにデフォルトのプリファレンスが使用されます。以下にリストしたシナリオは、次のようにサポートされます。

- **新規インストール**: System Update および Update Retriever は、それぞれの該当する構成可能なオプションにデフォルトのプリファレンスを設定してインストールされます。
- **アップグレードまたは上書きインストール (既に現行バージョンがインストール済み)** : Windows インストーラーは System Update または Update Retriever の旧バージョンを削除し、新規バージョンをインストールします。ご使用のネットワーク共有リポジトリー・フォルダーと内容が保存されます。

インストール時に、ショートカットが ThinkPad® システムの以下の**「スタート」**メニュー・フォルダーに追加されます。

```
Start Menu\Programs\ThinkVantage
```

Lenovo システムの場合、次のショートカットが**「スタート」**メニュー・フォルダーに追加されます。

```
Start Menu\Programs\Lenovo Care
```

プリファレンスは、以下の Windows レジストリー・キーの設定として保存されます。

- System Update の場合:

  ```
  HKLM\Software\Lenovo\System Update
  ```

- Update Retriever の場合:

  ```
  HKLM\Software\Lenovo\Update Retriever
  ```

アプリケーション・ファイルがインストールされる、デフォルトのフォルダーは以下のとおりです。

- System Update の場合:

  ```
  %PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update
  ```

- Update Retriever の場合:

```
%PROGRAMFILES%\Lenovo\Update Retriever
```

インストール手順およびコマンド・ライン・パラメーター

System Update および Update Retriever は、インストールに同じコマンド・ラインを使用できます。次の例は、System Update または Update Retriever の非サイレントのコマンド・ライン・インストールを開始します。

```
c:\>[System Update installation file name].exe
```

サイレント・コマンド・ライン展開を実行してからインストールするには、-s パラメーターを使用します。次のように、デフォルトで Windows の Temp フォルダーに展開されます。

```
c:\>[System Update installation file name].exe -s
```

特定のフォルダーにサイレントの展開を実行してからインストールするには、次のように f パラメーターを使用します。

```
c:\>[System Update installation file name].exe -s -fc:\tvt\tvsut
```

-f パラメーターにより、ファイルは c:¥tvt¥tvsut フォルダーに展開されます。

Windows 7 オペレーティング・システムの**「スタート」**メニューに System Update を追加するには、次のように CREATESHORTCUT=1 パラメーターを使用します。

```
setup.exe /w /s /v"/qn CREATESHORTCUT=1"
```

-e パラメーターを使用して、インストール・ファイルの内容を展開することができます。インストール・ファイルに実行可能ファイルを開始させる場合は、次のように -e パラメーターの後にファイル名を指定します。

```
e[System Update installation file name]
```

次の表に、ファイル名を指定しない例を示します。

表 3. 展開コマンド・スクリプト

製品	コマンド・ライン	コメント	展開フォルダー
System Update	SystemUpdate-setup.exe -fc:\tvt\tvsufolder -e	System Update を c:¥tvt¥tvsufolder に展開	c:¥tvt¥tvsufolder¥UninstallSU.exe
Update Retriever	UpdateRetriever-setup.exe -fc:\tvt\tvurfolder -e	Update Retriever を c:¥tvt¥tvurfolder に展開	c:¥tvt¥tvurfolder¥setup.exe

パラメーターのリスト

アプリケーションは自己解凍型インストール・ファイルとしてパッケージされます。従って System Update インストール・ファイルは実行可能ファイルを指定し、展開した後で開始します。-a パラメーターを使用すると、-a に続くすべてのパラメーターは、次のように実行可能インストール・ファイルに渡され、展開後に実行を開始するように求めます。

```
c:\>[System Update installation file name].exe –s –fc:\tvt\tvsut –a
 [list of parameters]
```

次の表に、-a パラメーターに使用できるパラメーターを示します。

表 4. -a のパラメーターのリスト

パラメーター	説明	例
/s	このパラメーターはサイレント・モードに使用されます。このパラメーターは、展開後に実行するインストール・ファイルに定義された初期化ウィンドウが出ないようにします。	[System Update installation file name].exe -s -a /s
/v	このパラメーターは、コマンド・ライン・スイッチとパブリックプロパティーの値をインストール・ファイルに組み込まれている MSI ファイルに渡します。このパラメーターは、MSI ファイルのユーザー・インターフェースを隠します。サイレント・インストールをする際、他のパラメーターおよび展開後にインストール・ファイルが開始する実行可能ファイルと一緒にこのパラメーターを使うことができます。コマンド・ラインを使用して MSI ファイルに情報を渡し、インストール・ファイルを実行することができます。/v パラメーターの後の、二重引用符記号 (『』) で囲まれたすべてのパラメーターは、MSI ファイルに渡されます。	[System Update installation file name].exe -s -a /s /v" /qn
/L	このパラメーターは複数言語インストール・プログラムで使用する言語を指定します。10 進数の言語 ID が必要です。10 進数の言語 ID は、表の識別子に対応します。System Update の言語コードを参照してください。	[System Update installation file name].exe -s -a /s /v" /qn" /L1033 上記コマンド・ラインは英語を使用した例です。
/w	このパラメーターは、インストール・ファイルに定義された実行可能ファイルを展開後に強制的に実行し、インストールが完了してから終了するように待機させます。	[System Update installation file name].exe -a /w 最初にインストール・ファイルの内容を展開し、実行可能ファイルに /w パラメーターを使用する場合、インストール・ファイルはファイルの内容の展開先のフォルダーを指定してから、展開後に開始する実行可能ファイルとしてインストール・ファイルに指定された実行可能ファイルを開始します。次に例を示します。 Setup.exe /w
reboot=r"	このパラメーターを指定すると、クリーン・インストール、アップグレード、または上書きインストールの処理中に再起動要求が表示されなくなります。	[System Update installation file name].exe -s -a /s /v" /qn reboot=r"

Windows Vista および Windows 7 の考慮事項

Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムの考慮事項として、System Update のサイレント・インストールを実行すると、ユーザー・アカウント制御 (UAC) メッセージが表示されます。ユーザー・アカウント制御メッセージを無効および有効にする方法については、次の Web サイトを参照して

ください。
http://technet2.microsoft.com/WindowsVista/en/library /0d75f774-8514-4c9e-ac08-4c21f5c6c2d91033.mspx?mfr=true

注：UAC がアクティブであると、Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムではサイレント・アンインストールが機能しません。

企業環境に System Update および Update Retriever をインストールするシナリオ

サイレント・コマンドを使用して System Update および Update Retriever をインストールするには、次の手順で行います。

1. 次の Lenovo Web サイトから管理者システムに Update Retriever をダウンロードします。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
2. 次の Lenovo Web サイトからクライアント・コンピューターに System Update をダウンロードします。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
3. クライアント・コンピューターへの System Update、または管理者システムへの Update Retriever のサイレント・インストールを実行するには、コマンド・プロンプトで次のコマンドを使用します。

```
setup.exe -s -a /s /v" /qn" /L1033
```

次の例はコマンドでの各スペースを表すパイプ・シンボルを使用したインストール・コマンドを示しています。次の各パイプ・シンボルはスペースに置き換えられます。

```
etup.exe|-s|-a|/s|/v"|/qn"|/L1033
```

L1033 は英語用の言語コードです。他の言語コードの使用については、8 ページの 『System Update の言語』 を参照してください。

注：System Update または Update Retriever をインストールした後で、システムを再起動し、いずれかのプログラムのスケジューラー機能を設定してください。System Update または Update Retriever のスケジューラー機能を使用する予定がない場合、再起動の必要はありません。

アンインストール

System Update および Update Retriever は、Windows オペレーティング・システムの**「プログラムの追加と削除」**を使用してアンインストールできます。アンインストールが完了すると、すべてのプログラム・ファイルと設定が削除されます。

または、コマンド・ラインを使用して、サイレント・アンインストールを実行できます。

System Update または Update Retriever をサイレント・アンインストールするには、次を実行します。

- System Update の場合、次のコマンドを使用します。

```
MsiExec.exe /X{8675339C-128C-44DD-83BF-0A5D6ABD8297} /qn
```

- Update Retriever の場合、次のコマンドを使用します。

```
siExec.exe /X{F25C538D-3F57-4AF4-80DD-B1DD1558F038} /qn
```

Windows Vista または Windows 7 オペレーティング・システムでのサイレント・アンインストール

Windows Vista または Windows 7 オペレーティング・システムのユーザー・アカウント制御 (UAC) 機能はデフォルトで有効であり、コンピューターに対する許可されない変更は回避されます。サイレント・アンインストールを実行する前に、UAC 機能を無効にする必要があります。

Windows Vista または Windows 7 オペレーティング・システムから System Update のサイレント・アンインストールを実行するには、次のように行います。

1. **「スタート」**メニューから**「コントロール パネル」**をクリックし、**「ユーザー アカウント」**オプションをダブルクリックします。
2. 「**ユーザー アカウント制御の有効化または無効化**」をクリックします。
3. Windows アクセス権ダイアログ・ボックスで、**「次へ」**をクリックします。
4. **「ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」**オプションをオフにし、**「OK」**をクリックします。
5. PC を再起動します。
6. **「スタート」**をクリックし、**「検索の開始」**ボックスに次のコマンド・ラインを入力します。

   ```
   MsiExec.exe /X{8675339C-128C-44DD-83BF-0A5D6ABD8297} /qn
   ```

7. Enter キーを押します。System Update はアンインストールされます。

第 3 章　設定

この章では、接続の設定、リポジトリー・ロケーション、およびユーザー・インターフェースを構成するための概念と手順を説明します。

接続構成

System Update および Update Retriever は、直接接続、静的プロキシー接続、および自動構成スクリプトの 3 つの接続構成のタイプをサポートします。

- **直接接続**
  この構成のタイプは、インターネットへの接続にプロキシーを必要としない場合に使用されます。これは、アプリケーションが Lenovo Help Center のサーバーに直接接続できることを意味します。
- **静的プロキシー接続**
  System Update および Update Retriever は、HTTP (Hypertext Transfer Protocol) プロキシーおよび SOCKS (Socket Security) プロキシーという 2 種類のプロキシーをサポートしています。
  - **HTTP プロキシー経由の接続**
    この構成のタイプでは、System Update および Update Retriever はインターネットへアクセスするのに HTTP プロキシー・サーバーに接続します。そのプロキシー・サーバーは Lenovo Help Center に接続します。

    注：HTTP 基本認証および NTLM (NT LAN Manager) 認証がサポートされます。

    以下のエレメントをシステム構成から入手します。
    - プロキシー・サーバー名または IP アドレス
    - プロキシー・サーバー・ポート

    プロキシー・サーバーは、クライアントのインターネットへのアクセスを認可する前に、認証を必要とすることがあります。その場合、エンド・ユーザーはユーザー名とパスワードを入力する必要があります。エンド・ユーザー用のユーザー名とパスワードの値は管理者が設定します。

    プロキシー・サーバーに接続するために HTTP プロキシー・サーバーがエンド・ユーザーに対してユーザー名とパスワードの入力を必要としていることが、System Update によって検出された場合は常に、HTTP プロキシーのオーセンティケーター (System Update の統合コンポーネント) でログイン・ダイアログが表示されます。正しいユーザー名とパスワードを入力すると、エンド・ユーザーは HTTP プロキシー・サーバーへの接続が認証されます。SOCKS の認証はサポートされません。
  - **SOCKS プロキシー経由の接続**
    この構成のタイプでは、System Update と Update Retriever は SOCKS サーバーに接続し、次に、SOCKS サーバーが Lenovo ヘルプ・センターに接続します。

    以下のエレメントを構成する必要があります。
    - サーバー名または IP アドレス
    - サーバー・ポート

    注：認証を使用しない SOCKS 4 のみがサポートされます。
- **自動構成スクリプト**
  Internet Explorer® Web ブラウザーの**「自動構成スクリプトを使用する」**を有効にすると、System Update と Update Retriever は自動構成スクリプト・ファイルに従ってインターネットにアクセスできます。

System Update の構成

System Update はレジストリー、Active Directory®、または start.reg ファイルを使用して構成できます。1 システムのみを構成する場合はレジストリーを使用して System Update を構成します。複数のシステムを構成する場合は、Active Directory を使用して System Update のポリシーを構成できます。Active Directory をご利用にならない企業に対しては、Lenovo は複数のシステムを構成してデプロイするための start.reg ファイルをご提供します。それぞれの構成方式について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- 16 ページの 『レジストリーを使用した System Update の構成』
- 30 ページの 『Active Directory を使用した System Update の構成』
- 37 ページの 『start.reg ファイルを使用した System Update の構成』

レジストリーを使用した System Update の構成

注意 : レジストリー構成を編集するには、System Update を終了します。レジストリーで変更が行われるときに System Update が開いていると、古いレジストリー項目が復元されます。

次の表に、最初に System Update を起動した後、System Update の構成可能な項目と変更可能な項目、およびレジストリーの場所を示します。

表 5. レジストリーの場所

設定	レジストリーの場所
Disable the System Update billboard。17 ページの 『UCSettings の構成可能項目』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥General
Disable registration on billboard	HKLM¥Software¥Lenovo¥Registration¥RegStatus
Disable System Update user interface。17 ページの 『UCSettings の構成可能項目』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥General
HTTPSHelloSettings の **RetryLimit**。18 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings
HTTPSHelloSettings の **RetryWaitTime**。18 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings
Disable System Update Web upgrade (Update Thyself)。18 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings
HTTPSPackageSettings の **RetryLimit**。19 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings
HTTPSPackageSettings の **RetryWaitTime**。19 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings
Proxy server connection。20 ページの 『¥UserSettings¥Connection』 を参照してください。	HKLM¥Software¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Connection
DebugEnable。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
DisplayInformationScreen。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
DisplayLicenseNotice。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』 を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General

表 5. レジストリーの場所 (続き)

設定	レジストリーの場所
DisplayLicenseNoticeSU。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
ExtrasTab。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
IgnoreLocalLicense。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
IgnoreRMLicCRCSize。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
NotifyInterval。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
RepositoryLocation1。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
UNCMaxAttempts。20 ページの 『UserSettings の構成可能項目』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥General
Scheduler Frequency。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
Scheduler Notify Options。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
Scheduler RunAt。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
Scheduler RunOn。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
SchedulerAbility。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
SchedulerLock。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler
SearchMode。23 ページの 『¥UserSettings¥Scheduler』を参照してください。	HKLM¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥Preferences¥UserSettings¥Scheduler

UCSettings の構成可能項目

ここでは、UCSettings キーで使用できる構成可能項目について説明します。

¥UCSettings¥Billboard

次の表と例に、Billboard キーの設定と値を示します。

表 6. ¥UCSettings¥Billboard

構成可能項目	説明	値	動作
LiveFeed	System Update ビルボードへのライブ・フィードを無効にします。	デフォルト: Lenovo ライブ・フィード 可能な値: • デフォルト • Blank	• **Default** の場合、ライブ・フィード・イメージは System Update ユーザー・インターフェースに表示されます。 • **Blank** の場合、デフォルトのビルボード・イメージは System Update ユーザー・インターフェースに表示されません。

例:

```
\Billboard
 \LiveFeed = Blank
```

¥UCSettings¥General

次の表と例に、General キーの設定と値を示します。

表 7. ¥UCSettings¥General

構成可能項目	説明	値	動作
Disable	System Update ユーザー・インターフェースを無効にします。コマンド・プロンプトを使用して System Update を構成する場合にこの設定値を使用します。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、System Update ユーザー・インターフェースは表示されません。 • **NO** の場合、System Update ユーザー・インターフェースは表示されます。

例:

```
\GENERAL
 \Disable = NO
```

¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings

次の表と例に、HTTPSHelloSettings キーの設定と値を示します。

表 8. ¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings

構成可能項目	説明	値	動作
RetryLimit	System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を試行する最大回数を指定します。	デフォルト値: 0 可能な値: 任意の有効な整数	System Update は、接続試行回数が最大試行数に達した後に Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続の試行を停止します。

表 8. ¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
RetryWaitTime	前回の接続試行が失敗した後に System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を再試行するときに待つ最大秒数を指定します。	デフォルト値: 0 可能な値: 任意の有効な整数	前回の接続試行が失敗した後に System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を試行するときに、この秒数を待ちます。
ServerName	System Update が更新パッケージを検索するサーバー名を指定します。デフォルト値を変更すると、System Update アプリケーションのアップグレード機能 (Update Thyself) が無効になります。	デフォルト値は事前構成されています。デフォルトでは、System Update は Lenovo ヘルプ・センター Web サイトに接続し、更新パッケージを検索します。 可能な値: サーバー名または空白	System Update は、ローカル・システムまたはネットワーク共有リポジトリーに接続されていても、Lenovo ヘルプ・センター Web サイトで更新パッケージを検索します。この値をクリアすることにより、System Update の Web アップグレードを無効にできます。

例:

```
\HTTPSHelloSettings
 \RetryLimit = 2
 \RetryWaitTime = 2
 \ServerName = https://
```

注：System Update が Lenovo Help Center Web サイトに接続すると、さまざまなサーバーと交信します。HTTPSHelloSettings キーの **RetryLimit** と **RetryWaitTime** 設定は、System Update と更新パッケージのダウンロード元のサーバー間の接続を制御します。

¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings

次の表と例に、HTTPSPackageSettings の設定と値を示します。

表 9. ¥UCSettings¥HTTPSPackageSettings

構成可能項目	説明	値	動作
RetryLimit	System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を試行する最大回数を指定します。	デフォルト値: 0 可能な値: 任意の有効な整数	System Update は、接続試行回数が最大試行数に達した後に Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続の試行を停止します。
RetryWaitTime	前回の接続試行が失敗した後に System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を再試行するときに待つ最大秒数を指定します。	デフォルト値: 0 可能な値: 任意の有効な整数	前回の接続試行が失敗した後に System Update が Lenovo ヘルプ・センター Web サイトへの接続を試行するときに、この秒数を待ちます。

例:

```
\HTTPSHelloSettings
 \RetryLimit = 2
 \RetryWaitTime = 2
```

注：HTTPSPackageSettings キーの **RetryLimit** と **RetryWaitTime** 設定は、System Update と更新パッケージを探すために使用されるサーバー間の接続を制御します。

UserSettings の構成可能項目

ここでは、UserSettings キーで使用できる構成可能項目について説明します。

¥UserSettings¥Connection

次の表と例に、Connections キーの設定と値を示します。これらの構成可能な項目は、プロキシー・サーバー接続用です。

表 10. ¥UserSettings¥Connection

構成可能項目	説明	値	動作
User	接続に使用するユーザー名を指定します。	デフォルト値: なし このエレメントはプロキシーの接続タイプ (HTTP プロキシー) で、プロキシー・サーバーが認証を必要とする場合にのみ使用されます。	この設定は、HTTP プロキシー・サーバーへのアクセスの認証に使用されます。
		可能な値: 任意の文字列	
Password	接続に使用するパスワードを指定します。	デフォルト値: なし	この設定は、HTTP プロキシー・サーバーへのアクセスの認証に使用されます。 System Update は、**ServerName** に定義された HTTP プロキシー・サーバーに、**User** に定義されたユーザー名を使用して接続します。この情報が必要な場合、エンド・ユーザーに対してこの情報を求めるプロンプトが出されます。
		可能な値: 任意の文字列	

例:

```
\Connection\
 \User = Billek
 \Password = ************
```

¥UserSettings¥General

次の表と例に、General キーの設定と値を示します。

表 11. ¥UserSettings¥General

構成可能項目	説明	値	動作
ContentMode	System Update が Update Retriever リポジトリーで検索する更新パッケージのステータスを参照します。	デフォルト値: ACTIVE 可能な値: • Active • Test	• **Active** の場合、System Update はアクティブ ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。 • **Test** の場合、System Update はテスト ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。 **注**：Update Retriever リポジトリー・フォルダーに database.xml ファイルがない場合、System Update は **ContentMode** の値を無視し、すべての更新パッケージを検索します。
DebugEnable	ApplicabilityRulesTrace.log というログ・ファイルに処理結果を記録できます。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、System Update は処理結果をログに記録します。 • **NO** の場合、System Update は処理結果をログに記録しません。
DisplayInformationScreen	System Update のユーザー情報画面をスキップできます。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、ユーザー情報画面が表示されます。 • **NO** の場合、ユーザー情報画面は表示されません。
DisplayLicenseNotice	更新パッケージのピック・リストが格納される前に表示される使用許諾契約をスキップできます。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、更新パッケージのピック・リストの前に使用許諾契約画面が表示されます。 • **NO** の場合、使用許諾契約画面は表示されません。
DisplayLicenseNoticeSU	System Update の**「更新のスケジュール」**パネルに表示される使用許諾契約をスキップできます。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、**「更新のスケジュール」**パネルで変更内容を保存する前に使用許諾契約が表示されます。 • **NO** の場合、使用許諾契約が表示され、変更内容は Windows レジストリーのサブキーに直接保存されます。

表 11. ¥UserSettings¥General (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
ExtrasTab	System Update ワークスペースの**「エクストラ」**タブを表示または非表示にできます。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、System Update ワークスペースの**「エクストラ」**タブは表示されます。 • **NO** の場合、System Update ワークスペースの**「エクストラ」**タブは表示されません。
IgnoreLocalLicense **注**：この設定を行うと、各パッケージをインストールするエンド・ユーザーの代わりに、**エンド・ユーザー使用許諾契約書と契約条件**を受け入れることになります。エンド・ユーザーの代わりに**エンド・ユーザー使用許諾契約書**を受け入れる権限がない場合、この設定を使用しないでください。	System Update が、ネットワーク共有リポジトリーなどのリポジトリー・フォルダーにある更新パッケージをダウンロードおよびインストールする場合、ライセンス・ダイアログを表示または非表示にできます。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、リポジトリーに更新パッケージを保存する際、ライセンス・ダイアログは表示されません。 **注**：パッケージを Lenovo ヘルプ・センターから直接取得し、更新パッケージの保存にリポジトリーを使用しない場合、**IgnoreLocalLicense** 値は無視され、ライセンス・ダイアログが表示されます。 • **NO** の場合、リポジトリーに更新パッケージを保存する際、ライセンス・ダイアログが表示されます。
IgnoreRMLicCRCSize	System Update で更新パッケージを Lenovo ヘルプ・センター Web サイトからダウンロードするときに、以下の機能を有効または無効に設定するには、この設定値を指定できます。 • **CRC (Cyclic Redundancy Check)**: Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから更新パッケージをダウンロードするときに、README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルが破損していないか検査します。 • **File size**: README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルのファイル・サイズを検査します。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、System Update はこれらのファイルを無視し、ファイルの破損およびサイズを検査しません。 • **NO** の場合、System Update はファイルの破損およびサイズを検査します。 **注**：ローカル・リポジトリーから更新パッケージをダウンロードする場合は、この値を **NO** に設定しても、System Update は README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルのファイル・サイズおよび破損を検査しません。

表 11. ¥UserSettings¥General (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
NotifyInterval	再起動の必要な更新パッケージをダウンロードしてインストールする場合、再起動通知から次の再起動通知までの時間を指定します。	デフォルト値: 300 (秒) 可能な値: 60 ~ 86,400 秒の任意の値	60 ~ 86,400 秒の値を指定できます。デフォルトでは、再起動を強制する更新パッケージのダウンロードとインストールを開始するか、ダウンロードおよびインストール処理を保留し始めると、300 秒ごとに再起動通知が表示されます。 無効な値が設定されると、System Update はデフォルト値を使用します。たとえば、86,400 秒 (24 時間) を超えた値が設定されると、System Update はデフォルト値 の 300 秒を使用します。
RepositoryLocation1	リポジトリー・フォルダーのパスを指定します。キー値名は Repository Location%N% です。この *N* は 1 以上 20 以下の数値です。	デフォルト値: SUPPORTCENTER 可能な値: • SUPPORTCENTER • フォルダー・パス	System Update は、指定されたリポジトリー・フォルダー内で更新パッケージを探します。
UNCMaxAttempts	System Update がネットワーク共有フォルダーへの接続を試行してから完全に失敗するまでの最大試行回数を指定します。	デフォルト値: 2 可能な値: 任意の有効な整数	System Update は、ネットワーク共有フォルダーに接続するとき、この回数を試行します。

例:

```
\GENERAL
 \CheckLocalCRC = YES
 \DebugEnable = NO
 \DisplayInformationScreen = YES
 \DisplayLicenseNotice = YES
 \DisplayLicenseNoticeSU = YES
 \ExtrasTab = NO
 \IgnoreLocalLicense = NO
 \IgnoreRMLicCRCSize = NO
 \NotifyInterval = 300
 \RepositoryLocation1 = SUPPORTCENTER
 \UNCMaxAttempts = 2
```

¥UserSettings¥Scheduler

スケジューラー機能を使用して System Update を構成し、指定された間隔で更新パッケージを検索できます。Lenovo サーバーからパッケージをダウンロードする速度を改善するには、**Run On** 設定を 1 日に変更して企業ごとの要望に合わせます。この作業は System Update のインストール時に行ってください。

注 : Windows 7 オペレーティング・システムの System Update にはスケジューラー設定がありません。これは Windows 7 オペレーティング・システムのタスク・スケジューラー・ツールに同じ機能があるためです。

次の表に、System Update スケジューラーのデフォルト設定と値を示します。

表 12. ¥UserSettings¥Scheduler

構成可能項目	説明	値	動作
SchedulerAbility	スケジューラーをアクティブまたは非アクティブにできます。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** に設定すると、System Update は指定したスケジュールに従って実行されます。 • **NO** に設定すると System Update はスケジュールに従って実行されません。
SchedulerLock	System Update ユーザー・インターフェースで**「更新のスケジュール」**オプションの表示、非表示、無効、またはロックを実行できます。	デフォルト値: SHOW 可能な値: • SHOW • HIDE • DISABLE • LOCK	• **SHOW** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションが左方のナビゲーション・ペインに表示されます。 • **HIDE** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションはエンド・ユーザーから見えません。 • **DISABLE** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションは左方のナビゲーション・ペインに薄く表示されます。 • **LOCK** の場合、**「更新のスケジュール」**パネルは開くことができますが、設定値は無効となり変更できません。
SearchMode	検索対象として、System Update をスケジュールする更新の種類を指定します。	デフォルト値: RECOMMENDED 可能な値: • CRITICAL • RECOMMENDED • ALL	• **CRITICAL** の場合、System Update は重要な更新パッケージのみを検索します。 • **RECOMMENDED** の場合、System Update は重要および推奨の更新パッケージを検索します。 • **ALL** の場合、System Update はすべての更新パッケージを検索し、すべての更新パッケージが取得されます。

表 12. ¥UserSettings¥Scheduler (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
NotifyOptions	System Update スケジューラーから受け取る通知オプションを選択できます。	デフォルト値: NOTIFY 可能な値: • DOWNLOAD ANDINSTALL • DOWNLOAD • NOTIFY • DOWNLOAD ANDINSTALL -INCLUDEREBOOT **注**：**SearchMode** を **RECOMMENDED** に設定する場合、**NotifyOptions** で使用できる値は **NOTIFY** のみです。**NotifyOptions** にその他の値を選択すると、System Update は実行できません。	• **DOWNLOADANDINSTALL** の場合、スケジューラーはエンド・ユーザーが操作しなくても更新パッケージをダウンロードしてインストールします。 • **DOWNLOAD** の場合、スケジューラーは更新パッケージをダウンロードし、更新パッケージのインストールの準備ができることをエンド・ユーザーに通知します。 • **NOTIFY** の場合、スケジューラーは新規の更新パッケージを検索し、新規更新がダウンロードおよびインストールに使用可能になると、エンド・ユーザーに通知します。 • **DOWNLOADANDINSTALL -INCLUDEREBOOT** の場合、System Update は更新パッケージをダウンロードし、インストールして、エンド・ユーザーにシステムの再起動を要求します。 **注**：値を区切るスペースがないことを確認してください。
Frequency (頻度)	スケジューラーを実行する間隔 (週次または月次) を指定します。	デフォルト値: MONTHLY 可能な値: • MONTHLY • WEEKLY	• **WEEKLY** の場合、間隔は週単位で計算されます。 • **MONTHLY** の場合、間隔は月単位で計算されます。 **注**：この設定と **SchedulerRunEvery** 設定を使用して、System Update が実行される頻度を設定します。
RunOn	System Update スケジューラーを実行する日付を指定します。	デフォルト値: 1 可能な値: 1 から 28	System Update は指定した日に実行されます。頻度が WEEKLY の場合、この設定に指定できる値は、**SUNDAY**、**MONDAY**、...**SATURDAY** です。頻度が **MONTHLY** の場合、この設定に指定できる値は、**1 ~ 28** です。
RunAt	System Update スケジューラーを実行する時刻を指定します。この値は毎時間隔で指定できます。	デフォルト値: 11 可能な値: 0 から 23 の任意の値 (0 は午前 0 時、23 は、午後 11 時を表す)	System Update は指定した時刻に実行されます。

例:

```
\SCHEDULER\
 \SchedulerAbility = NO
```

```
\SchedulerLock = SHOW
\SearchMode = CRITICAL
\NotifyOptions = NOTIFY
\Frequency = WEEKLY
\RunOn = MONDAY
\RunAt = 12
```

リポジトリーの構成

System Update はデフォルトでは Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから更新パッケージを取得します。この設定は、System Update がローカル・システムのリポジトリー・フォルダーまたはネットワーク共有リポジトリー・フォルダーからそれぞれ更新パッケージを検索し、ダウンロードできるように変更できます。また、System Update を構成し、Lenovo ヘルプ・センター Web サイト、ローカル・システム・リポジトリー・フォルダー、およびネットワーク共有リポジトリー・フォルダーから複数の場所で更新パッケージを検索することもできます。

ローカル・システム・リポジトリーの作成

System Update には、クライアント・コンピューターまたは管理者システム、もしくは外部メディアに保存してある更新パッケージを検索する機能があります。

%ANYDRV% の使用

リポジトリー・パスを設定するときに、ドライブ名を指定する代わりに *%ANYDRV%* 変数を指定して、ローカル・システム・リポジトリー・フォルダーを作成できます。

%ANYDRV% を使用してローカル・システム・リポジトリー・フォルダーを作成するには、以下の操作を実行します。

1. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをローカル・ハードディスク・ドライブに作成します。たとえば、以下の操作を実行します。

   ```
   %ANYDRV%\SystemUpdate3_x\
   ```

2. 次のレジストリー項目に進みます。

   ```
   HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\
   UserSettings\General\RepositoryLocation1
   ```

3. デフォルトの **SUPPORTCENTER** 値をステップ 1 で作成したリポジトリーのファイル・パスに置き換えます。たとえば、以下の操作を実行します。

   ```
   ANYDRV%\SystemUpdate3_x\
   ```

%XMEDIA% の使用

%XMEDIA% 変数は、CD、DVD、USB ストレージ・デバイス、ハードディスク、またはディスケットのようなシステムに接続されている外付けメディアのリポジトリー・ロケーション・パスの検出に使用できます。*%XMEDIA%* を使用してローカル・システム・リポジトリー・フォルダーを作成するには、以下の操作を実行します。

1. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをローカル・ハードディスク・ドライブに作成します。たとえば、以下の操作を実行します。

   ```
   %XMEDIA%\SystemUpdate3_x\
   ```

2. 次のレジストリー項目に進みます。

   ```
   KLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\
   UserSettings\General\RepositoryLocation1
   ```

3. デフォルトの **SUPPORTCENTER** 値をステップ 1 で作成したリポジトリーのファイル・パスに置き換えます。たとえば、以下の操作を実行します。

```
%XMEDIA%\SystemUpdate3_x\
```

ネットワーク共有リポジトリーの作成

更新パッケージを保存するために使うネットワーク共有リポジトリー・フォルダーを作成するには、以下の操作を実行します。

1. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをネットワーク共有に作成します。
2. その新しいリポジトリー・フォルダーを UNC (汎用命名規則) を使用して共有にします。UNC パスを使用すれば、そのリポジトリーにマップされたすべての PC が接続できるようになります。UNC パスの形式は次のとおりです。

```
\\Server\Share\
```

例:

```
\Server_X\TVSU_repository\
```

3. 新規リポジトリー・フォルダーのエンド・ユーザーに対するアクセス許可を、読み取り専用アクセスに設定します。管理者機能には読み取りおよび書き込みアクセスが必要です。
4. クライアント・コンピューターで、次のレジストリー項目に進みます。

```
HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\
UserSettings\General\RepositoryLocation1
```

注：このレジストリー項目のデフォルトは **SUPPORTCENTER** です。このデフォルト設定により、System Update は Lenovo Help Center Web サイトで更新パッケージを検索できます。ネットワーク上に作成したこのネットワーク共有リポジトリー・フォルダーの設定を変更する場合、System Update がインストールされたクライアント・コンピューターは、ネットワーク上で更新パッケージを検索できます。

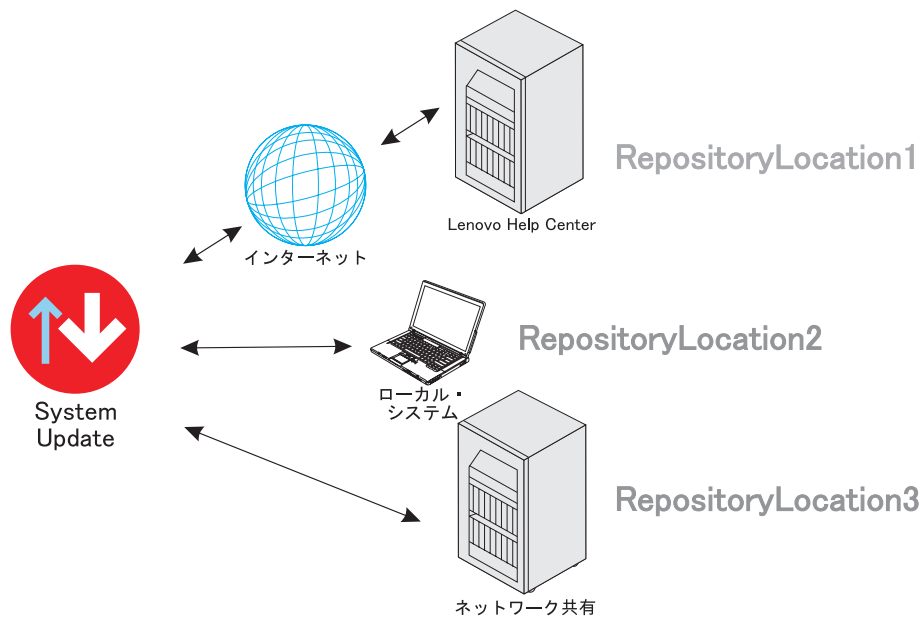
5. デフォルト値 **SUPPORTCENTER** 値をご使用のサーバーおよび共有名に置き換えます。たとえば、以下の操作を実行します。

```
\Server_X\TVSU_repository\
```

注：ネットワーク共有リポジトリーを構成するには、ストレージ管理ソリューションの 1 つである分散ファイル・システム (DFS) を使用できます。

複数リポジトリーの作業

複数リポジトリーの機能により、パッケージ・ストレージにより高い柔軟性を提供しつつ、最新バージョンの更新パッケージを確実に取得することができます。複数リポジトリーを使用すると、System Update はレジストリーに定義されたリポジトリーの順に更新パッケージを検索します。System Update はそれぞれのリポジトリー・ロケーションを検索して、最新バージョンの更新パッケージを取得します。Lenovo Help Center Web サイトのパッケージは最新のバージョンです。リポジトリー・ロケーションが見つからないと、System Update はその次の数値を持つリポジトリー・ロケーションを検索します。例えば、RepositoryLocation1 を示すフォルダーが削除されている場合、System Update は RepositoryLocation2、RepositoryLocation3 の順に検索します。

次の図は、複数リポジトリーを使用する場合の、Lenovo ヘルプ・センター、ローカル・システム、ネットワーク共有、および System Update 間の関係を示しています。

この例では、System Update は最初に Lenovo Help Center Web サイトを検索し、次にローカル・システムのリポジトリー・フォルダー、その次にネットワーク共有のリポジトリー・フォルダーを検索します。

- RepositoryLocation1 - Lenovo Help Center Web サイト
- RepositoryLocation2 - ローカル・システム
- RepositoryLocation3 - ネットワーク共有

レジストリーを使用した複数リポジトリーの作成と構成

複数のリポジトリー・ロケーションを作成し、構成するには、以下の操作を実行します。

1. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをローカル・ハードディスク・ドライブに作成します。たとえば、以下の操作を実行します。

   ```
   %ANYDRV%\SystemUpdate3_x\
   ```

2. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをネットワーク共有に作成します。
3. その新しいリポジトリー・フォルダーを UNC を使用して共有にします。UNC パスを使用すれば、そのリポジトリーにマップされたすべての PC が接続できるようになります。System Update UNC パスの形式は次のとおりです。

   ```
   \\Server\Share\
   ```

   例:

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

4. 新規リポジトリー・フォルダーのエンド・ユーザーに対するアクセス許可を、読み取り専用アクセスに設定します。管理者機能には読み取りおよび書き込みアクセスが必要です。
5. 次のレジストリー・ロケーションに進みます。

   ```
   HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\UserSettings\General\
   ```

   注：RepositoryLocation1 項目にはデフォルト・キーがあります。

6. 以下の操作で、RepositoryLocation2 としてローカル・システム・リポジトリーを作成します。
   a. Registry Editor のメインメニューから「**編集**」クリックし、「**新規**」をクリックします。
   b. ストリング値を **RepositoryLocation2** に変更します。
   c. 「**RepositoryLocation2**」ストリングをダブルクリックします。
   d. ご使用のローカル・システム・リポジトリーのファイル・パスを入力します。たとえば、以下の操作を実行します。

   ```
   %ANYDRV%\SystemUpdate3_x\
   ```

7. 以下の操作で、RepositoryLocation3 としてネットワーク共有リポジトリーを作成します。
   a. Registry Editor のメインメニューから「**編集**」クリックし、「**新規**」をクリックします。
   b. ストリング値を **RepositoryLocation3** に変更します。
   c. 「**RepositoryLocation3**」ストリングをダブルクリックします。
   d. ご使用のサーバーのネットワーク共有リポジトリー・パスを入力して、共有します。例えば、次のようにします。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

UNC

ネットワーク共有にアクセスするために System Update と Update Retriever で使用したユーザー名とパスワードは、System Update と Update Retriever でのみ使用する必要があります。System Update または Update Retriever で使用されるものと同じユーザー名とパスワードを使用してリポジトリー・ロケーションをマップしたりログオンすると、ネットワーク共有に接続するために使用される MapDrv ユーティリティーはネットワーク共有リポジトリーにアクセスできません。この状態が発生すると、System Update および Update Retriever はネットワーク共有リポジトリーにアクセスしようとして失敗します。

詳しくは、89 ページの 『MapDrv ユーティリティーの使用』 を参照してください。

System Update のバージョン管理

System Update の新バージョンが入手可能になると、System Update は Lenovo ヘルプ・センター Web サイトに接続し、新バージョンを検出してダウンロードし、そのバージョンをインストールします。この処理はユーザーが操作しなくても自動的に行われますが、無効にすることができます。アップグレードを無効に設定するには、18 ページの 『¥UCSettings¥HTTPSHelloSettings』を参照してください。

ユーザーが有効な System Update のバージョンを管理する場合、ご使用のネットワーク・リポジトリーを使用して System Update の特定バージョンを保存できます。パッケージをローカルに保存すると、System Update アプリケーションでネットワーク・リポジトリー内のアップグレードを検索することができます。

注：このバージョン管理機能は、System Update 3.02 以降のバージョンと互換性があります。

System Update のバージョン管理用のレジストリーを構成するには、以下の操作を実行します。

1. 次の Lenovo Web サイトから SSClientCommon.zip ファイルをダウンロードします。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
2. 次のように、更新パッケージを保存するリポジトリーとして使用するフォルダーを作成します。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

3. 次のように、そのファイルを SSClientCommon.zip ファイルからご使用のリポジトリー・フォルダーに展開します。

```
\\Server_X\TVSU_repository\SSClientCommon\
```

4. クライアント・コンピューターに System Update をインストールします。
5. 以下の操作を実行して、クライアント・コンピューターでレジストリ・キーを構成します。
   a. 次のレジストリー項目に進みます。

   ```
   HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\UCSettings\HTTPSHelloSettings
   ```

   b. 「**ServerName**」をダブルクリックします。
   c. **「文字列の編集」**ダイアログ・ボックスの**「値のデータ」**フィールドで、次のように HTTP サーバー・アドレスをご使用のリポジトリーの UNC パスに置き換えます。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

   d. 「**OK**」をクリックします。
   e. 次のレジストリー項目に進みます。

   ```
   HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\UserSettings\General
   ```

   f. 「**RepositoryLocation1**」をダブルクリックします。
   g. **「文字列の編集」**ダイアログ・ボックスの**「値のデータ」**フィールドで、次のように HTTP サーバー・アドレスをご使用のリポジトリーの UNC パスに置き換えます。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

   h. 「**OK**」をクリックします。

Active Directory を使用した System Update の構成

Active Directory はディレクトリー・サービスです。ディレクトリーは、エンド・ユーザーおよびリソースに関する情報が保存されている場所です。ディレクトリー・サービスによりアクセスが許可されるため、これらのリソースを操作することができます。Active Directory が提供するメカニズムにより、管理者は PC、グループ、エンド・ユーザー、ドメイン、セキュリティー・ポリシー、およびすべてのタイプのユーザー定義オブジェクトを管理する機能を得られます。Active Directory がこの機能を付与するために使用するメカニズムのことを、グループ ポリシーといいます。管理者は、グループ ポリシーを使用して、PC やユーザーに適用できる設定をドメインの中に定義します。

以下に、Active Directory が管理できる System Update 用の設定の例を示します。

- スケジューラーの設定
- 割り当てられたネットワーク・ドライブの設定

管理用テンプレート・ファイル

管理用テンプレート・ファイル (ADM ファイル) は、クライアント PC 上のアプリケーションで使用されるポリシー設定を定義します。ポリシーとは、アプリケーションの操作を管理する特定の設定のことです。ポリシー設定は、エンド・ユーザーがアプリケーションを使用して特定の設定値を設定できるかどうかも定義します。

サーバー上の管理者が定義する設定は、ポリシーとして定義されます。クライアント PC 上のエンド・ユーザーが定義する、アプリケーションに関する設定は、プリファレンスとして定義されます。Microsoft 社による定義のとおりに、ポリシー設定はプリファレンスより優先します。System Update が設定を検査するときは、次の順序で設定を検索します。

1. コンピューター・ポリシー
2. PC プリファレンス

前述のように、コンピューター・ポリシーとユーザー・ポリシーは、管理者によって定義されます。これらの設定は、start.reg ファイルを使用して、あるいは Active Directory のグループ ポリシーを使用して初期化されます。コンピューターのプリファレンスは、クライアント PC 上のエンド・ユーザーによって、アプリケーション・インターフェース内のオプションを使用して設定されます。

注：ADM ファイルおよびグループ・ポリシー・エディターを使用して System Update のポリシーの設定を行う場合、必ず各バージョン専用にリリースされた ADM ファイルを使用します。例えば、System Update 3.2 向けのポリシーをカスタマイズする場合は、System Update 3.2 向けの ADM ファイルを使用する必要があります。

管理用テンプレートの追加

ADM ファイルをグループ・ポリシー・エディターに追加するには、次の処理を実行します。

1. ご使用のサーバーで、Active Directory を起動します。
2. **「servername.com」**をクリックし、**「プロパティ」**をクリックします。
3. **「グループ ポリシー」**タブで、**「新規グループ ポリシー・オブジェクト」**を強調表示して**「編集」**ボタンをクリックします。

   注：また、**「開く」**または**「検索の開始」**ボックスに `gpedit.msc` を入力して、グループ・ポリシー・エディターを起動することもできます。
4. **「コンピュータの構成」**で、**「管理用テンプレート」**を右クリックします。
5. **「追加」**ボタンを押してから、System Update 用の ADM ファイルを選択します。
6. **「テンプレートの追加と削除」**ダイアログ・ボックスの**「閉じる」**をクリックします。
7. **「コンピュータの構成」**で、**「管理用テンプレート」**をクリックします。**「System Update」**という名前の新しいタブがあります。これで、すべての使用可能な設定を構成できます。

注：Windows 2000 オペレーティング・システムの場合、新規 ADM ファイルを追加したときに**ユーザーの構成**のポリシーがグループ・ポリシーで認識されなければ、グループ・ポリシーを閉じてから再度開いてください。Windows XP および Windows Vista オペレーティング・システムの場合、新規 ADM ファイルを追加したときに System Update 向けの ThinkVantage ポリシーが重複していれば、グループ・ポリシー・エディターを閉じてから再度開いてください。

管理可能設定の定義

この例では、次の階層を使用して、グループ・ポリシー・エディター内に設定を表示します。

```
Computer Configuration > Administrative Templates > ThinkVantage >
System Update > UserSettings > General > RepositoryLocation1
```

ADM ファイルは、レジストリー内の、設定が反映される場所を示します。これらの設定は、レジストリー内の次の場所になければなりません。

- `HKLM\Software\Lenovo\System Update`
- `HKLM\Software\Lenovo\Update Retriever`

グループ・ポリシーの即時適用

ADM ファイルの設定を構成した直後にポリシーの設定を適用するには、以下の操作を実行します。

1. Windows の**「スタート」**メニューで**「ファイル名を指定して実行」**をクリックします。
2. `gpedit.msc /force` と入力し、「**OK**」をクリックします。

グループ・ポリシーの設定

以下の表に、System Update 用のポリシー設定を示します。

ユーザー設定

次の表に、ユーザー設定ポリシーの設定を示します。

表 13. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > User Settings

ポリシー	設定	説明
ContentMode **注：**Update Retriever リポジトリー・フォルダーに database.xml ファイルがない場合、System Update は ContentMode の値を無視し、すべての更新パッケージを検索します。	Active	System Update はアクティブ ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。
	Test	System Update はテスト ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。
「接続」	User	この設定で、接続に使用するユーザー名を指定します。
	Password	この設定で、接続に使用するパスワードを指定します。プロキシーの暗号化パスワードを保存します。
「全般」	Repository Location	この設定では、更新パッケージをダウンロードしてインストールするリポジトリー・ロケーションを指定します。デフォルトの設定値は **SUPPORTCENTER** で、System Update は Lenovo ヘルプ・センターから更新パッケージをダウンロードできます。また、ネットワーク共有ドライブでリポジトリー・パスを指定して、System Update がネットワーク共有リポジトリー・フォルダーの更新パッケージを検索するようにもできます。リポジトリーのセットアップについて詳しくは、26 ページの『リポジトリーの構成』を参照してください。
	UNC Max Attempts	この設定で、ローカル・リポジトリー認証に許される最大試行回数を指定します。
	DisplayLicenseNoticeSU	この設定で、**「更新のスケジュール」**パネルに表示される使用許諾契約をスキップできます。 • **YES** の場合、System Update の**「更新のスケジュール」**パネルで変更内容を保存する前に使用許諾契約が表示されます。 • **NO** の場合、使用許諾契約は表示されません。
「全般」	Ignore Local License	System Update が、ネットワーク共有リポジトリーなどのリポジトリー・フォルダーにある更新パッケージをダウンロードおよびインストールする場合、この設定でライセンス・ダイアログを表示または非表示にできます。 • **YES** の場合、リポジトリーに更新パッケージを保存する際、ライセンス・ダイアログは表示されません。 **注：**パッケージを Lenovo ヘルプ・センターから直接取得し、更新パッケージの保存にリポジトリーを使用しない場合、**IgnoreLocalLicense** 値は無視され、ライセンス・ダイアログが表示されます。 • **NO** の場合、リポジトリーに更新パッケージを保存する際、ライセンス・ダイアログが表示されます。

表 13. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > User Settings (続き)

	IgnoreRMLicCRCSize	System Update で更新パッケージを Lenovo ヘルプ・センター Web サイトからダウンロードするときに、以下の機能を有効または無効に設定するには、この設定値を指定できます。 • **CRC**: Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから更新パッケージをダウンロードするときに、README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルが破損していないか検査します。 • **File size**: README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルのファイル・サイズを検査します。 値は **YES** または **NO** に設定できます。 • **YES** の場合、System Update はこれらのファイルを無視し、ファイルの破損およびサイズを検査しません。 • **NO** の場合、System Update はファイルの破損およびサイズを検査します。 **注**：ローカル・リポジトリーからパッケージをダウンロードする場合は、この値を **NO** に設定しても、System Update は README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルのファイル・サイズおよび破損を検査しません。
	Notify Interval	再起動の必要な更新パッケージをダウンロードしてインストールする場合、この設定で、再起動通知から次の再起動通知までの時間を指定します。 60 ～ 86,400 秒の値を指定できます。デフォルトでは、再起動を強制する更新パッケージのダウンロードとインストールを開始するか、ダウンロードおよびインストール処理を保留し始めると、300 秒ごとに再起動通知が表示されます。 無効な値が設定されると、System Update はデフォルト値を使用します。たとえば、86,400 秒 (24 時間) を超えた値が設定されると、System Update はデフォルト値 の 300 秒を使用します。
「スケジューラー」 **注**：Windows 7 オペレーティング・システムの System Update にはスケジューラー設定がありません。これは Windows 7 オペレーティング・システムのタスク・スケジューラー・ツールに同じ機能があるためです。	SchedulerAbility	この設定で、スケジューラーをアクティブまたは非アクティブにできます。 • **YES** に設定すると、System Update は指定したスケジュールに従って実行されます。 • **NO** に設定すると System Update はスケジュールに従って実行されません。
	SchedulerLock	この設定によって、System Update ユーザー・インターフェースで**「更新のスケジュール」**オプションの表示、非表示、無効、またはロックを実行できます。 • **SHOW** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションが左方のナビゲーション・ペインに表示されます。 • **HIDE** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションはエンド・ユーザーから見えません。 • **DISABLE** の場合、**「更新のスケジュール」**オプションは左方のナビゲーション・ペインに薄く表示されます。 • **LOCK** の場合、**「更新のスケジュール」**パネルは開くことができますが、設定値は無効となり変更できません。

表 13. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > User Settings (続き)

	Scheduler Mode	この設定で、System Update が操作を行うパッケージのタイプを決定します。 • **Monthly** に設定すると、System Update は「**Day Of The Month**」で設定された日付に更新パッケージを検索します。 • **Weekly** に設定すると、System Update は「**Day Of The Week**」で設定された曜日に検索を実行します。
	Day Of The Month	この設定で、System Update が新規更新パッケージを検索するその月の日付を指定します。デフォルト値は **1** です。
	Day Of The Week	この設定で、System Update が新規更新パッケージを検索するその週の日付を指定します。デフォルト値は **Monday** です。
	Hour	この設定で、System Update が新規更新パッケージを検索する時刻を指定します。 有効な値: **0** ～ **23** の任意の数値 (**0** は 午前 0 時、**23** は、午後 11 時を表す) デフォルト値は **0** です。
	TaskParameters	スケジュールされた System Update タスクを実行するコマンドに渡されるパラメーター。デフォルト値は次のとおりです。 `/CM -search R -action LIST -scheduler` コマンド・ライン・パラメーターについて詳しくは、77 ページの 付録 A『コマンド・ライン・パラメーター』を参照してください。
「割り当てられたネットワーク・ドライブ」	UNC	この設定で、割り当てられたネットワーク・ドライブの UNC の場所を指定します (形式: `¥¥server\share`)。デフォルト値はなしです。
	User	この設定によって、`mapdrv.exe /view` コマンドを使用して、このフィールドに入れる暗号化された値を作成します。デフォルト値はなしです。
	Password	この設定によって、`mapdrv.exe /view` コマンドを使用して、このフィールドに入れる暗号化された値を作成します。デフォルト値はなしです。

UCSettings

次の表に、System Update の General ポリシーのための設定を示します。

表 14. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > UCSettings > General

ポリシー	設定	説明
「全般」	Billboard¥LiveFeed	この設定を使用して、ビルボード設定を取得するライブ・フィードの System Update によるチェックを無効または有効にできます。この値をクリアすることにより、ビルボード機能を System Update から除去できます。
「全般」	Disable	この設定は、System Update が System Update の実行要求を無視するかどうか決定するために使用されます。 • **NO** の場合、System Update は平常どおり実行されます。 • **YES** の場合、System Update は実行されません。

表 14. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > UCSettings > General (続き)

ポリシー	設定	説明
「全般」	Extras Tab	**「エクストラ」**タブを使用すると、適切なソフトウェア、ハードウェア、およびソリューションの検索が容易になり、システムを最新の状態に保ち、システムの全能力を発揮できます。System Update は、ご使用のシステムを分析し、システムをさらに強化するために使用可能なソリューションを推奨します。 この設定によって、System Update ユーザー・インターフェースの**「エクストラ」**タブを表示または非表示にできます。 • **YES** の場合、System Update ワークスペースの**「エクストラ」**タブは表示されます。 • **NO** の場合、System Update ワークスペースの**「エクストラ」**タブは表示されません。 デフォルト値は **YES** です。

次の表は、System Update の Update Thyself 機能用のポリシー設定を示します。

表 15. コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > ThinkVantage > System Update > UCSettings > HTTPSHelloSettings

ポリシー	設定	説明
HTTPSHelloSettings	Update Thyself	System Update は、ネットワーク共有リポジトリーに接続されていても、Lenovo Help Center Web サイトでそれ自身の更新パッケージをチェックします。 この設定は、Update Thyself 機能を有効または無効にします。この値をクリアすることにより、Update Thyself 機能を System Update から除去できます。

Active Directory を使用したネットワーク共有リポジトリーの管理

このセクションでは、ネットワーク共有リポジトリーのポリシー設定について説明します。これらのポリシーを設定すると、System Update のエンド・ユーザー・インターフェースが起動するとき、あるいはスケジュールされた更新が実行されるときに、エンド・ユーザーに対してユーザー名とパスワードのプロンプトが出されます。エンド・ユーザーがドメイン認証を行うときに、ネットワーク共有リポジトリーのアクセスに適切な権限を持っていれば、System Update エンド・ユーザー・インターフェースにユーザー名とパスワードのプロンプトは表示されません。

Active Directory を使用すれば、グループ・ポリシー・エディターによりポリシー設定を編集できます。ネットワーク共有リポジトリー・フォルダーの設定をカスタマイズするには、System Update 用の ADM ファイルをグループ・ポリシー・エディターに追加します。

ADM ファイルを追加し、設定をカスタマイズするには、以下の操作を実行します。

1. 次の Lenovo Web サイトから System Update ADM ファイルをダウンロードします。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu

   注：ADM ファイルおよびグループ・ポリシー・エディターを使用して System Update のポリシーの設定を行う場合、必ず各バージョン専用にリリースされた ADM ファイルを使用します。例えば、System Update 3.2 向けのポリシーをカスタマイズする場合は、System Update 3.2 向けの ADM ファイルを使用する必要があります。
2. ご使用のサーバーで、Active Directory を起動します。
3. **「servername.com」**をクリックし、**「プロパティ」**をクリックします。

4. **「グループ ポリシー」**タブで、**「新規グループ ポリシー・オブジェクト」**を強調表示して**「編集」**ボタンをクリックします。

   注：また、**「開く」**または**「検索の開始」**ボックスに gpedit.msc を入力して、グループ・ポリシー・エディターを起動することもできます。
5. **「管理用テンプレート」**を右クリックします。
6. 「**テンプレートの追加と削除**」を選択します。
7. **「追加」**をクリックし、tvsu.adm ファイルを選択します。
8. **「テンプレートの追加と削除」**ダイアログ・ボックスの**「閉じる」**をクリックします。**「ThinkVantage」**タブが作成されます。

   注：「ThinkVantage」タブの下に**「System Update」**タブがあります。該当するポリシーが表示されない場合は、グループ・ポリシー・エディターがすべてのポリシーを表示するように設定されているか確認してください。
9. グループ・ポリシー・エディターで次の場所に進みます。

   ```
   Computer Configuration\Administrative Templates\ThinkVantage
   \System Update\User Settings\General\Repository Location
   ```
10. **Repository Location** をダブルクリックします。
11. **Local Repository Location 1** フィールドで、次の例のように値を **SUPPORTCENTER** からご使用のネットワーク共有リポジトリーに変更します。

    ```
    \\Server_X\TVSU_repository\
    ```
12. 「**適用**」をクリックします。

複数リポジトリーのポリシーを設定する

複数リポジトリーを使用する場合にグループ・ポリシー・エディターでポリシーを設定するには、以下の例を参照してください。

1. System Update の管理用テンプレートを追加した後で、グループ・ポリシー・エディターで次の場所に進みます。

   ```
   Computer Configuration\Administrative Templates\ThinkVantage
   \System Update\User Settings\General\Repository Location
   ```
2. **Repository Location** をダブルクリックします。
3. **Local Repository 2** フィールドで、ご使用のローカル・システム・リポジトリーのファイル・パスを入力します。たとえば、次のようにします。

   ```
   %ANYDRV%\SystemUpdate3_x\
   ```
4. **Local Repository 3** フィールドで、ご使用のサーバーのネットワーク共有リポジトリー・パスを入力して、共有します。たとえば、次のようにします。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```
5. 「**適用**」をクリックします。

Active Directory を使用した System Update のバージョン管理

ユーザーが有効な System Update のバージョンを管理する場合、ご使用のネットワーク・リポジトリーを使用して System Update の特定バージョンを保存できます。パッケージをローカルに保存すると、System Update でネットワーク・リポジトリー内のアップグレードを検索することができます。

System Update のバージョン管理用の Active Directory を構成するには、以下の操作を実行します。

1. 次の Lenovo Web サイトから SSClientCommon.zip ファイルをダウンロードします。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
2. SSClientCommon.zip ファイルをご使用のリポジトリー・フォルダーに展開します。
3. System Update の管理用テンプレートを追加した後で、グループ・ポリシー・エディターで次の場所に進みます。

   ```
   Computer Configuration\Administrative Templates\ThinkVantage
   \System Update\UCSettings\HTTPSHelloSettings
   ```
4. 「**Update Thyself**」をダブルクリックします。
5. 「**有効**」をクリックします。
6. **「Update Thyself」**テキスト・ボックスで、次のようにご使用のリポジトリーの UNC パスを入力します。

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

   注：ご使用のリポジトリー・フォルダーが認証を必要とする場合、「Mapped Network Drive」のポリシーを設定します。Mapped Network Drive のポリシーについて詳しくは、32 ページの 『グループ・ポリシーの設定』を参照してください。
7. 「**OK**」をクリックします。
8. この設定をクライアント・コンピューターにデプロイします。

注：この System Update バージョン管理機能は、System Update 3.02 以降のバージョンと互換性があります。

start.reg ファイルを使用した System Update の構成

構成可能な項目は、System Update の起動時に最初から設定されます。start.reg ファイルは Windows レジストリーを更新するために使用され、System Update 用の ADM ファイルがインストールされているフォルダーにあります。レジストリーのフィールドは start.reg ファイルの内容に基づいて最初に設定されます。インストールされた start.reg ファイルには、System Update が使用するデフォルト構成が入っています。

注意：start.reg ファイルは System Update を初めて実行した後で削除されます。start.reg 設定を、レジストリー設定が破損したときに復元するデフォルトの設定にするには、start.reg ファイルを default.reg に名前変更して、それを次のパスに保存します。
`c:¥Program Files¥Lenovo¥System Update¥default`

注：

1. Windows 7 オペレーティング・システムの System Update にはスケジューラー設定がありません。これは Windows 7 オペレーティング・システムのタスク・スケジューラー・ツールに同じ機能があるためです。
2. start.reg ファイルを使用して、レジストリーでネットワーク共有リポジトリーのディレクトリーを設定する場合、ディレクトリー・パスの円記号 (¥ または ~~¥¥~~) にはその前にもう 1 つの円記号 (¥) を付けてください。たとえば、

   ```
   ¥¥Server_X¥TVSU_repository¥
   ```

   ではなく

   ```
   ¥¥¥¥Server_X¥¥TVSU_repository¥¥
   ```

   と指定します。

企業に Active Directory がない場合、start.reg ファイルを使用して System Update のレジストリーを構成できます。

start.reg ファイルを使用してレジストリーのリポジトリー・ロケーションを変更するには、以下の手順を実行します。

1. 次の Lenovo Web サイトから System Update の完全バージョンと start.reg ファイルをダウンロードします。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
2. start.reg ファイルの **RepositoryLocation1** を更新します。ネットワーク・リポジトリーを使用しない場合、**RepositoryLocation1** 設定のデフォルトは **SUPPORTCENTER** です。次に、デフォルト設定例を示します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥
Preferences¥UserSettings¥General]
"DisplayInformationScreen"="YES"
"DisplayLicenseNotice"="YES"
"DisplayLicenseNoticeSU"="YES"
"AskBeforeClosing"="YES"
"UNCMaxAttempts"="2"
"DebugEnable"="NO"
"ExtrasTab"="YES"
"IgnoreLocalLicense"="NO"
"RepositoryLocation1"="SUPPORTCENTER"
"IgnoreRMLicCRCSize"="YES"
"NotifyInterval"="300"

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update¥
Preferences¥UserSettings¥Scheduler]
"SchedulerAbility"="YES"
"SchedulerLock"="SHOW"
"NotifyOptions"="NOTIFY"
"SearchMode"="RECOMMENDED"
"Frequency"="MONTHLY"
"RunOn"="1"
"RunAt"="11"
```

ネットワーク・リポジトリー構成の場合は、**RepositoryLocation1** 設定の値をご使用のリポジトリーのパスに変更します。次に、ネットワーク・リポジトリー構成の例を示します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Lenovo¥System Update
¥Preferences¥UserSettings¥General]
"DisplayInformationScreen"="YES"
"DisplayLicenseNotice"="YES"
"DisplayLicenseNoticeSU"="YES"
"AskBeforeClosing"="YES"
"UNCMaxAttempts"="2"
"ContentMode"="Active"
"DebugEnable"="NO"
"ExtrasTab"="YES"
"IgnoreLocalLicense"="NO"
"RepositoryLocation1"="¥¥¥¥Server_X¥¥TVSU_repository¥¥"
"IgnoreRMLicCRCSize"="YES"
"NotifyInterval"="300"
```

start.reg ファイルを使用した複数リポジトリー・ロケーションの構成

次の例は 複数リポジトリーを使用した start.reg ファイルの構成を示しています。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
\Preferences\UserSettings\General]
"DisplayInformationScreen"="YES"
"DisplayLicenseNotice"="YES"
```

```
"DisplayLicenseNoticeSU"="YES"
"AskBeforeClosing"="YES"
"UNCMaxAttempts"="2"
"DebugEnable"="NO"
"ExtrasTab"="YES"
"IgnoreLocalLicense"="NO"
"RepositoryLocation1"="SUPPORTCENTER"
"RepositoryLocation2"="%ANYDRV%\\SystemUpdate3_x\\"
"RepositoryLocation3"="\\\\Server_X\\TVSU_repository\\"
"IgnoreRMLicCRCSize"="YES"
"NotifyInterval"="300"
```

start.reg ファイルを使用した System Update のバージョン管理

ユーザーが有効な System Update のバージョンを管理する場合、ご使用のネットワーク・リポジトリーを使用して System Update の特定バージョンを保存できます。更新パッケージをローカルに保存すると、System Update でネットワーク・リポジトリー内のアップグレードを検索することができます。この System Update バージョン管理機能は、System Update 3.02 以降のリリースと互換性があります。

System Update のバージョン管理用の start.reg ファイルを構成するには、以下の操作を実行します。

1. 次の Lenovo Web サイトから、SSClientCommon.zip および管理ツール・パッケージをダウンロードします。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
2. 更新パッケージを保存するリポジトリーとして使用するフォルダーを作成します。

   注：新規リポジトリー・フォルダーのエンド・ユーザーに対するアクセス許可を、読み取り専用アクセスに設定します。管理者機能には読み取りおよび書き込みアクセスが必要です。
3. SSClientCommon.zip ファイルをご使用のリポジトリー・フォルダーに展開します。
4. Administrator Tools パッケージを実行します。Administrator Tools パッケージを実行すると、start.reg ファイルが次のディレクトリー・パスに入ります。

   ```
   C:\SWTOOLS\TOOLS\Z703_Admin003
   ```

5. 既存の HTTP サーバー名をご使用のリポジトリー・フォルダーに置き換えて、start.reg ファイルの「**ServerName**」文字列を編集します。次にデフォルト設定の例を示します。

   ```
   [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
   \Preferences\UCSettings\HTTPSHelloSettings]
   "RetryLimit"="0"
   "RetryWaitTime"="0"
   "ServerName"="https://download.boulder.ibm.com/ibmdl/pub/pc/pccbbs/agent/"
   "BlockSize"="4096"
   "Domains"=hex(7):2e,00,6c,00,65,00,6e,00,6f,00,76,00,6f,00,2e,00,63,00,6f,00,\
    6d,00,00,00,2e,00,69,00,62,00,6d,00,2e,00,63,00,6f,00,6d,00,00,00,00,00
   ```

   次の例は、リポジトリー・パスに変更された「**ServerName**」設定を示しています。

   ```
   [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
   \Preferences\UCSettings\HTTPSHelloSettings]
   "RetryLimit"="0"
   "RetryWaitTime"="0"
   "ServerName"="\\\\Server_X\\TVSU_repository\\"
   "BlockSize"="4096"
   "Domains"=hex(7):2e,00,6c,00,65,00,6e,00,6f,00,76,00,6f,00,2e,00,63,00,6f,00,\
    6d,00,00,00,2e,00,69,00,62,00,6d,00,2e,00,63,00,6f,00,6d,00,00,00,00,00
   ```

注：start.reg ファイルのカスタマイズを終了したら、メモリー・キーまたは CD などの外部メディアを使用して、このレジストリー・ファイルをクライアント・コンピューターにデプロイします。

System Update ビルボードと start.reg ファイル

start.reg ファイルを使用して構成をデプロイする場合、次の設定を使用して System Update ビルボードのライブ・フィードを無効にできます。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\UCSettings\Billboard]
"LiveFeed"="Blank"
```

LiveFeed 値を **Blank** に設定すると、デフォルトのビルボード・イメージがユーザー・インターフェースに表示されます。

第 4 章 System Update の作業

この章では、System Update を使用しての更新パッケージの処理についてと、System Update の Web アップグレードのダウンロードについて説明します。

System Update について

System Update を使用して更新パッケージの検索をすると、その要求は (どのように System Update を構成してあるかに従って) リポジトリーまたは Lenovo ヘルプ・センターに向けられます。それに対する応答として、System Update は候補の新規更新のリストを返します。次に System Update は、どの候補の更新パッケージがご使用の PC のハードウェアとソフトウェアに適用可能かを検査して、該当する更新パッケージのリストを表示します。また、System Update は、他の更新パッケージに関連している更新パッケージを重大度の順番で表示します。ユーザーが必要とする更新パッケージを選択すると、System Update は該当の更新パッケージをリポジトリーまたは Lenovo ヘルプ・センターからダウンロードして、インストールの方式を示します。2 つ以上の更新パッケージが関連する場合、System Update はすべての更新パッケージをダウンロードしてインストールします。

ご使用のシステムを最新に保つように設計されているため、System Update は以下の機能を提供します。

- 新規更新の取得
- 据え置き更新のインストール
- 更新のスケジュール

エクストラ タブ

System Update の機能の 1 つである**「エクストラ」**タブは、適切なソフトウェア、ハードウェア、およびソリューションの検索を容易にして、システムを最新の状態に保ち、システムの能力を最大限発揮できるようにサポートします。

System Update は、ご使用のシステムを分析し、システムのパフォーマンスをさらに強化するために使用可能なソリューションを推奨します。以下は**「エクストラ」**タブが推奨する例です。

- メモリーのアップグレード
- プリンターの推奨
- 保証の推奨

System Update ビルボード

System Update のさまざまな画面において、ユーザー・インターフェースは Lenovo がお客様登録用に提供するライブ・フィード・ビルボードのイメージになります。このイメージをクリックすると、登録プロセスが開始されます。登録を完了すると、ご使用のシステムに関連する重要情報を Lenovo から受け取ることができます。レジストリーで値をクリアして、このライブ・フィードをオフにできます。レジストリー、ADM ファイル、または start.reg ファイルを使用してこの設定を構成する方法の詳細については、15 ページの 第 3 章『設定』を参照してください。

注：登録機能が使用できるのは、米国内のみです。

更新パッケージの処理

更新パッケージは、いくつかのファイルを一緒にして作成されています。更新パッケージは、自己解凍型インストーラー・プログラム、更新パッケージを定義する XML ディスクリプター・ファイル、1

つまたは複数の NLS README ファイル、任意のパッケージ・ライセンス・ファイル、およびオプションの検出モジュールで構成されています。

適用可能な更新パッケージは、クライアント・コンピューターのトリプレットと一致する必要があります。*トリプレット*とは、オペレーティング・システム、マシン・タイプ (MT)、およびオペレーティング・システムの言語の組み合わせです。トリプレット値の例を次に示します。

```
Windows XP, 2373, US English
```

注：Update Retriever のメインウィンドウで複数のマシン・タイプ/モデル番号を選択すると、適用可能な更新画面で選択した複数のシステムに共通なすべてのパッケージについて、各システムの横にチェック・マークが付きます。1 つのシステムのチェック・ボックスをクリアすると、すべてのシステムのチェック・ボックスがクリアされます。

更新パッケージをダウンロードおよびインストールする

次の異なる場所から更新パッケージをダウンロードおよびインストールできます。

- Lenovo ヘルプ・センター Web サイト
- ローカル・システムのリポジトリー・フォルダー
- ネットワーク共有リポジトリー・フォルダー

以下のセクションでは各場所について詳しく説明し、ユーザーが組織に最適の構成を作成できるようにします。

Lenovo Help Center Web サイトを使用する

ユーザーは、System Update を使用して、新規更新の検索を手動で開始できます。System Update は以下の情報をユーザーに通知し、ユーザーはシステムに適用可能な更新パッケージかどうかを判別できます。

- オペレーティング・システム
- マシン・タイプ
- オペレーティング・システムの言語

System Update は、次に更新パッケージの選択可能なリストを提供します。ユーザーは、更新を据え置くことができます。そのため、まず更新パッ ケージのダウンロードのみ行ってインストールは後で行うか、更新パッケージをダウンロードしてすぐにインストールするかを選択できます。ダウンロードする更新パッケージを選択し、その選択を確認すると、更新パッケージはダウンロードされ、システムにインストールされます。

ローカル・システムのリポジトリー・フォルダーの使用

ユーザーは更新パッケージをローカルに保存するように PC をセットアップできます。そうするには、リポジトリーとして使用するフォルダーをユーザーの PC 上に作成し、ローカル PC 上でリポジトリーを示すレジストリーのリポジトリー・パスを変更します。

ネットワーク共有でのリポジトリー・フォルダーの使用

ネットワーク共有に置かれたリポジトリーから新規更新をダウンロードし、インストールできます。System Update は認証に必要となるエンド・ユーザーのクレデンシャル (ユーザー名とパスワード) を、アプリケーションのプロパティーから暗号化された文字列として取得します。ユーザー名とパスワードが存在しない場合は、System Update はネットワーク共有への接続を継続するために、ユーザー名とパスワードのプロンプトをユーザーに出します。

注：ユーザー名とパスワードのプロパティーは Active Directory で管理できます。アプリケーションのプロパティで使用する場合、ユーザー名とパスワードは暗号化する必要があるため、管理者は MapDrv と呼ばれる Lenovo が提供するユーティリティーを使用し、ソフトウェア鍵を使用してユーザー名とパ

スワードの暗号化文字列を生成できます。MapDrv ユーティリティーについて詳しくは、87 ページの『MapDrv ユーティリティー』を参照してください。

ユーザー名とパスワードを格納するために以下のキーが使用されます。

- HKLM¥Software¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥UNC=<network share>
- HKLM¥Software¥Policies¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥UNC=
  <network share>
- HKLM¥Software¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥Pwd=
  <encrypted password>

Active Directory ポリシーが使用される場合、これらの値は以下のディレクトリーに保存されます。

- HKLM¥Software¥Policies¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥UNC=
  <network share>
- HKLM¥Software¥Policies¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥User=
  <encrypted username>
- HKLM¥Software¥Policies¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION¥Pwd=
  <encrypted password>

使用許諾契約書の作業

更新パッケージを検索すると、System Update はダウンロードおよびインストールするための更新パッケージを提供します。更新パッケージには使用許諾契約書が含まれていることがあります。更新パッケージをリポジトリーに保存する場合、サイレント・コマンド・スクリプトを使用し、またこれらの使用許諾契約書を自動的に同意するよう System Update を構成することで時間と作業を節約できます。使用許諾契約書を自動的に認識するように System Update を構成するには、以下のレジストリー値を **YES** に設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
\Preferences\UserSettings\General\IgnoreLocalLicense
```

注：使用許諾契約書を認識するためのサイレント・コマンド・スクリプトの使用は、更新パッケージの保存にリポジトリーを使用している場合にのみ正常に機能します。パッケージを Lenovo Help Center Web サイトから直接入手する場合、サイレント・コマンド・スクリプトは有効ではありません。

System Update の使用

System Update を使用して更新パッケージを検索する場合、System Update は検索結果を 4 つのカテゴリー: 重要、推奨、オプション、およびエクストラで表示します。このカテゴリー化はパッケージの重大度レベルも定義します。各カテゴリーの説明については、次を参照してください。

- 重要パッケージは、ご使用のシステムが適切に機能するために必須であると考えられています。これらのパッケージのインストールに失敗した場合、データ損失、システムの誤動作、またはハードウェア障害につながる可能性があります。重要な更新はスケジュールを設定して自動的にダウンロードしてインストールするように選択できます。重要なパッケージの例を次に示します。
  – ハードディスクのファームウェア更新 (適用しない場合、ハードディスクの障害を引き起こすことがある)。
  – BIOS のアップグレード (適用しない場合、システム遅延を引き起こす)。
  – アプリケーションへのソフトウェア・パッチ (適用しない場合、システムのデータ損失を引き起こすことがある)。
- 推奨パッケージは Lenovo によって推奨され、システムが最適なパフォーマンスで確実に機能するようにします。この重大度レベルは、大半のドライバーでデフォルトにする必要があります。推奨パッケージの例を次に示します。

- ブルー・スクリーンの問題を引き起こす可能性がある問題を修正するビデオ・ドライバー。
- 小規模なお客様に影響することがある小さい修正を含む BIOS 更新。
- モバイル・システムのバッテリーの寿命を最大限に活用するための省電力ドライバー。

- オプションのパッケージはコンピューターの操作性を改善しますが、必須ではありません。オプションのパッケージの例を次に示します。
  - あるシステムから別のシステムへのファイルのマイグレーションを可能にする ThinkVantage® Rescue and Recovery® プログラムなどのツール。Rescue and Recovery プログラムはシステムの操作には必要ありませんが、インストールすると役に立ちます。
  - 新規システムをサポートするためにのみ更新され、修正を含まない、BIOS またはドライバーのアップグレード。
- エクストラ・パッケージは、ソフトウェア、ハードウェア、またはソリューション・パッケージから構成され、システム全体を最新の状態に保ち、システムの全能力を発揮できるように支援します。エクストラ・パッケージの例を次に示します。
  - メモリーのアップグレード
  - プリンターの推奨
  - 保証の推奨

更新検索のスケジューリング

新規更新の検索を手動で開始するか、または、カスタム・リポジトリーから検索するように System Update が設定されている場合、指定した時間間隔で新規更新の自動検索をスケジュールするかを選択することができます。更新パッケージの自動検索を有効にするときに、パッケージのタイプと、新規更新を System Update が検索する頻度と時刻を定義することができます。

System Update を使用すると、スケジュールに基づいて次の自動検索を実行できます。

- 45 ページの 『新規更新の自動検索』
- 45 ページの 『 新規更新の自動検索およびダウンロード』
- 45 ページの 『 新規更新の自動検索、ダウンロード、およびインストール』

自動検索の構成

スケジュールに基づいて新規更新を自動的に検索するように System Update を構成するときに、以下のオプションが選択可能です。

- **スケジュール**新規更新の検索を週次または月次で行うように選択できます。週次検査の場合は、曜日と時間を選択する必要があります。月次検査の場合は、日付と時間を選択する必要があります。
- **通知の設定**推奨される更新とオプションの更新の場合、新規更新が検出されたときに通知を受けるように選択でき、その更新をダウンロードするか、または別の機会までダウンロードを遅延させるか選択ができます。重要な更新の場合、自動ダウンロードし、ダウンロードの完了後は通知するようにアプリケーションを設定できます。または、すべての更新パッケージをダウンロードおよびインストールして、ダウンロードおよびインストールの完了後は通知するように設定することもできます。

自動検索の通知オプションの構成

自動検索を行う場合は、重要、推奨、およびオプションの更新について、以下の通知オプションのどれかを使用してアプリケーションを構成できます。

- 新しい更新パッケージが見つかるごとに通知が出るため、ダウンロードとインストールを手動で開始することができます。
- 新しい更新パッケージのダウンロードとインストールを行い、完了した時点で通知します。
- 自動的に更新パッケージをダウンロードして、更新パッケージのインストールの準備ができた時点で通知します。

通知はバルーン・ヒントの形式で表示されます。

新規更新の自動検索

System Update の構成を編集することにより、指定したスケジュールでカスタム・リポジトリーの更新のみを検索できます。新規更新が検出されると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。ユーザーがそのバルーン・ヒントをクリックすると、System Update に新規更新が表示されます。ユーザーは、該当のアプリケーション・アイコンをダブルクリックすることにより System Update を起動することもできます。

アプリケーション・アイコンを右クリックすると、**「起動」**と**「終了」**の 2 つのオプションが選択可能です。**起動**を選択すると System Update が起動し、新規更新を表示します。**「終了」**を選択すると、アプリケーション・アイコンは削除され、新規更新に対する次のスケジュールされた検索が実行されるまでは、新規更新が存在してもユーザーへは通知されません。

新規更新の自動検索およびダウンロード

System Update の構成を編集することにより、ユーザーのシステムに適用可能な新規更新を、指定されたスケジュールで自動的に検索し、ダウンロードできます。新規更新が見つかると、更新パッケージは、遅延する更新のローカル・キャッシュに自動的にダウンロードされます。ダウンロードが完了すると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。バルーン・ヒントをクリックすると、System Update が起動して、ダウンロードされインストールの準備ができた新規更新を表示します。ユーザーは、該当のアプリケーション・アイコンをダブルクリックすることにより System Update を起動することもできます。

右クリックして、**「起動」**または**「終了」**を選択できます。**起動**を選択すると System Update が起動し、新規更新を表示します。**「終了」**を選択すると、アプリケーション・アイコンは削除され、新規更新に対する次のスケジュールされた検索が実行されるまでは、新規更新がダウンロードされてもユーザーへは通知されません。

新規更新の自動検索、ダウンロード、およびインストール

System Update の構成を編集することにより、ユーザーのシステムに適用可能な新規更新を、指定されたスケジュールで自動的に検索し、ダウンロードしてインストールできます。新規更新が見つかると、それらの更新パッケージはユーザーのシステムに自動的にダウンロードされインストールされます。インストールが完了すると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。ユーザーがそのバルーン・ヒントをクリックすると、System Update が起動して、インストールされた更新パッケージとその結果を表示します。ユーザーは、該当のアプリケーション・アイコンをダブルクリックすることにより System Update を起動することもできます。

右クリックして、**「起動」**または**「終了」**を選択できます。**「起動」**を選択すると System Update が起動し、結果の画面を表示します。**「終了」**を選択すると、アプリケーション・アイコンは削除され、新規更新に対する次のスケジュールされた検索が実行されるまでは、新規更新がインストールされてもユーザーへは通知されません。

ダウンロードとインストールの履歴を表示する

ユーザーはシステムにダウンロードおよびインストールされた更新の履歴を表示できます。それぞれの更新に対して、ダウンロードおよびインストールの結果は、成功または失敗のどちらかで示されます。

非表示更新の非表示と復元

更新は非表示にでき、これは、特定の更新が適用可能な更新として表示されなくなることを意味します。更新の特定バージョンを非表示にできます。

再起動を強制する更新の処理

複数の更新パッケージをインストールして、その更新パッケージの中の 1 つが再起動を強制する場合、System Update は再起動をした後、次の新規更新からインストールを続行します。

Keyboard shortcuts

次の表は、System Update の主要機能のキーボード・ショートカットを示しています。

表 16. Keyboard shortcuts

機能	**ショートカット**
新規更新の取得	CTRL+U
据え置き更新のインストール	CTRL+D
更新のスケジュール	CTRL+S
インストール履歴の表示	CTRL+H
非表示の更新の復元	CTRL+R
閉じる	CTRL+E
コンテキスト・ヘルプ	F1

第 5 章 Update Retriever の作業

この章では、Update Retriever のセットアップおよび使用方法について説明します。

Update Retriever について

Update Retriever を使用すると、更新パッケージを Lenovo Help Center Web サイトからネットワーク共有リポジトリー・フォルダーにダウンロードできます。一度構成すると、System Update で更新パッケージ用のリポジトリーを検索できます。これによりネットワーク経由で利用可能な更新を、より柔軟にコントロールすることができます。

更新の検索を手動で開始するか、または、指定した時間間隔で新規パッケージの自動検索をスケジュールすることができます。自動検索を実行する場合は、Update Retriever を構成して、新規更新が見つかると通知するようにして手動でダウンロードを開始するか、または新規更新を自動的にダウンロードして、ダウンロードが完了したときに通知を出すようにできます。

更新パッケージの概要

Update Retriever は、更新パッケージの変更または作成を可能にします。更新パッケージは、自己解凍型インストーラー・プログラム、更新パッケージを定義する XML ディスクリプター・ファイル、1 つまたは複数の NLS README ファイル、任意のパッケージ・ライセンス・ファイル、およびオプションの検出モジュールで構成されています。すべての更新パッケージには、メタデータが入った XML ディスクリプター・ファイルがあり、そのクライアント・コンピューターに存在しなければならない条件、および更新パッケージをクライアント・コンピューターにインストールする方法が記述されています。更新パッケージが XML ディスクリプター・ファイルに定義した要件と一致すれば、その更新パッケージはターゲット・システムに適用可能な更新パッケージと考えられます。XML ディスクリプター・ファイルには、System Update によって認識され処理されるために必要な更新パッケージの情報が入っています。

注：更新パッケージを変更するには、Update Retriever を使用して XML ディスクリプター・ファイルを編集する必要があります。詳しくは、Update Retriever のヘルプ・システムを参照してください。

以下のリストは、Update Retriever を使用してカスタマイズできる更新パッケージのメタデータです。

- パッケージの識別
  - パッケージ ID
  - 名前
  - Version
  - 取引先
  - リリース日付
  - パッケージのインストールに必要な空き容量
  - パッケージのタイトル、説明、要約、および言語
  - バージョン検出
  - ターゲット・アプリケーション
- インストール済み環境の検出
  - プログラムの追加と削除
  - BIOS
  - BIOS の日付

- CPU アドレス幅
- ドライバー
- 組み込みコントローラー・バージョン
- 外部検出
- ファイルの日付
- ファイルの存在
- ファイル・バージョン
- ハードディスク (HDD)
- オペレーティング・システムとオペレーティング・システムの言語
  - OS
  - OSLang
  - OSNLang
- プラグ・アンド・プレイ・アダプター ID (PnPID)
- レジストリー・キー
- レジストリー・キーの値
- サポートされるシステム
- 取引先

• 更新パッケージへの重大度レベルの割り当て
  - 重要
  - 推奨
  - オプション

• インストールのセットアップと詳細
  - インストールのタイプ
    - コマンド
    - シェル
    - INF ファイル
  - 成功または失敗を示す 1 つまたは複数の戻り値コード
  - 再起動タイプ
  - 展開コマンド
  - デフォルトの言語
  - 手動インストール詳細
  - アンインストール詳細

• 更新パッケージを作成するファイルの定義
  - インストーラー・ファイル
  - 外部ファイル
  - README ファイル
  - ライセンス・ファイルおよびその他のシステム固有のファイル

Update Retriever の初めてのセットアップ

Update Retriever を始めて起動する場合、Update Retriever をセットアップする必要があります。Update Retriever を初めてセットアップするには、以下の操作を実行します。

1. Update Retriever を起動します。

   注：Update Retriever を起動するとき、ユーザーはローカル管理者グループに所属するユーザーとしてログオンする必要があります。

2. 「ようこそ」画面で、リポジトリー・フォルダーを指定し、次を実行してログオン情報を設定します。
   a. ネットワーク共有リポジトリーとして使用する共有ドライブのリポジトリー・パスを、**「リポジトリー・パス」**フィールドに入力するか参照します。

      注：次に Update Retriever を起動するときには、「ようこそ」画面は表示されません。ただし、リポジトリー・パスと更新のデフォルト・ステータスは、Update Retriever ナビゲーション・ペインの**「設定の変更」**オプションを使用して変更できます。

   b. ネットワーク共有リポジトリーとして使用する共有ドライブのユーザー名とパスワードを、**ユーザー名**と**パスワード**のフィールドに入力します。

3. **「新規更新の取得」**パネルで、**「追加」**をクリックします。
4. 「新規システムの追加」ウィンドウで、以下の操作を実行して、システムのトリプレット情報を設定します。
   a. 該当のマシン・タイプを入力します。マシン・タイプは、ノートブック・コンピューターの底面、あるいはデスクトップ・マシンの背面に見つかります。
   b. 適用可能なオペレーティング・システムを選択します。
   c. 適用可能な言語を選択します。
   d. 「**追加**」をクリックしてから、「**保存**」をクリックします。
5. **「新規更新の取得」**パネルで、更新パッケージを検索する適用可能なマシン・タイプの横にあるチェック・ボックスをオンにします。

   注：すべてのマシン・タイプについて更新パッケージを検索する場合、**「すべて選択」**チェック・ボックスをオンにします。

6. **「次へ」**をクリックしてから、**「完了」**をクリックして、適用可能な更新パッケージの検索を開始します。Update Retriever は、更新パッケージを指定されたリポジトリー・フォルダーに入れます。

注意：ネットワーク共有リポジトリーで重複する更新パッケージが見つかり、その更新パッケージのパッケージ内容が異なる場合、ネットワーク共有リポジトリーの内容を管理している場合は、そのマシン・タイプに対応する名前を使用して、すべてのパッケージを選択できます。

注：ある国で Windows Vista オペレーティング・システムを実行するノートブック・コンピューターに Update Retriever をインストールし、別の国で更新パッケージをダウンロードする場合には、更新パッケージのライセンス・ファイルは正しく表示されないことがあります。この問題を回避するには、Update Retriever をインストールした国以外では更新パッケージをダウンロードしないようにしてください。

Update Retriever の使用

Update Retriever を使用して、更新パッケージの検索を手動で開始するか、または、指定した時間間隔で新規更新パッケージの自動検索をスケジュールすることができます。

以下のセクションでは、Update Retriever を使用した更新パッケージの検索、自動検索のスケジュール、ダウンロード履歴の表示、および非表示の更新の復元について説明します。

新規更新の手動検索

ユーザーは、ウィザードのようなインターフェースを使用して、新規更新の検索を手動で開始できます。更新パッケージは、各クライアント・コンピューターのトリプレット値に固有のものです。*トリプレット*とは、オペレーティング・システム、マシン・タイプ (MT)、およびオペレーティング・システムの言語の組み合わせです。トリプレット値の例を次に示します。

```
Windows XP, 2373, US English
```

さまざまなトリプレットのシステムに対して、更新は一致するマシン・タイプ、オペレーティング・システム、および言語の値に割り当てられます。更新を表すトリプレットの値は、更新が Lenovo Help Center Web サイトから Update Retriever を使用してダウンロードされると、リポジトリーに保存されます。

トリプレット値が指定されると、Update Retriever は Lenovo Help Center Web サイトを検索して、指定されたトリプレット値をターゲットとするパッケージのリストを表示します。更新の検索を開始した後、少し時間をおいてから、該当の更新を選択してダウンロードできるようになります。ダウンロードする更新を選択し終わると、その選択を検討する機会が与えられます。選択を確認した後に、更新は指定されたリポジトリーにダウンロードされます。

更新検索のスケジューリング

Update Retriever を構成して、スケジュールに基づいて新規更新を自動的に検索します。スケジューラーは、新規更新の検索を開始します。管理者は、Update Retriever の構成に従って、E メールまたは通知領域のアプリケーション・アイコンからのバルーン・ヒントの形式で通知されます。

自動検索の構成

スケジュールに基づいて新規更新を自動的に検索するように Update Retriever を構成するときに、以下のオプションが選択可能です。

- **スケジュール**新規更新の検索を週次または月次で行うように選択できます。週次検査の場合は、曜日と時間を選択する必要があります。月次検査の場合は、日付と時間を選択する必要があります。
- **通知の設定**推奨される更新とオプションの更新の場合、新規更新が検出されたときに通知を受けるように選択でき、その更新をダウンロードするか、または別の機会までダウンロードを遅延させるか選択ができます。重要な更新の場合、自動ダウンロードし、ダウンロードの完了後は通知するようにアプリケーションを設定できます。または、すべての更新パッケージをダウンロードおよびインストールして、ダウンロードおよびインストールの完了後は通知するように設定することもできます。

自動検索の通知オプションの構成

自動検索を行う場合は、重要、推奨、およびオプションの更新について、以下の通知オプションのどれかを使用してアプリケーションを構成できます。

- 新しい更新パッケージが見つかるごとに通知が出るため、ダウンロードとインストールを手動で開始することができます。
- 新しい更新パッケージのダウンロードとインストールを行い、完了した時点で通知します。
- 自動的に更新パッケージをダウンロードして、更新パッケージのインストールの準備ができた時点で通知します。

通知は、通知領域のアプリケーション・アイコンからのバルーン・ヒントまたは E メールの形式で通知できます。E メール通知には検査の日付と時間、見つかったパッケージの数、および更新パッケージのリストが含まれています。

新規更新の自動検索

重要な更新に対して自動検索を実行する場合は、Update Retriever を構成して、新規更新が見つかると通知されるようにするか (そのように構成すると後で手動でダウンロードを開始できます)、または新規更新を自動的にダウンロードして、ダウンロードが完了したときに通知するようにできます。

推奨される更新に対して自動検索を実行する場合は、新規更新が見つかると通知されるように Update Retriever を構成することができ、そのようにすると後で手動でダウンロードを開始できます。

注：System Update は、その更新が指定されていた対象システムにのみ、更新がインストールされるようにします。

リポジトリーの管理

Update Retriever により、リポジトリーで更新を管理することができます。

リポジトリーの更新の表示

リポジトリーにある更新は、**「リポジトリーの管理」**を選択してから**「更新ビュー」**を選択して表示できます。

オペレーティング・システム、言語、マシン・タイプ、重大度、および状況によってフィルターして、更新を表示できます。**「更新ビュー」**パネルでは、更新パッケージのリストを更新 ID、タイトル、バージョン、再起動タイプ、重大度、ライセンス、または状況でソートできます。1 つ以上のパッケージを選択してから、それらを変更または削除できます。Lenovo パッケージ以外を選択して、そのトリプレットを変更することもできます。

更新パッケージの変更

リポジトリーに保存されている 1 つまたは複数の更新パッケージの再起動タイプ、重大度、ライセンス、および状況を変更できます。

以下の表に、選択した更新パッケージに設定できる値を示します。

表 17. 更新パッケージの値

オプション	可能な値
再起動タイプ	• (空) • 再起動なし: 再起動タイプ 0 • 再起動を強制する: 再起動タイプ 1 • 予約済み • 再起動を必須にする: 再起動タイプ 3 • シャットダウン: 再起動タイプ 4
重大度	• (空) • 重要 • 推奨 • オプション

表 17. 更新パッケージの値 (続き)

オプション	可能な値
ライセンス	• (空) • ディスプレイ • 表示なし
状況	• (空) • テスト • アクティブ **注意**：パッケージが運用中であり、System Update が認識できることを示すには、値を**アクティブ**に変更する必要があります。

注：デフォルト値は、Update Retriever を初回のセットアップ時に設定されました。デフォルト値を設定するには、Update Retriever ナビゲーション・ペインで**「設定の変更」**オプションを使用します。53 ページの 『設定の変更』 を参照してください。

更新パッケージの作成

更新パッケージを作成するには、**「更新ビュー」**パネルの**「更新の作成」**をクリックします。

更新パッケージを作成するには、以下の操作を実行します。

1. 7zip、WinZip、WinRar、Package For The Web (PFTW) または MSI のようなインストーラーを使用して、ソース・ファイルに対して 1 つのインストールの実行可能ファイルをビルドします。
2. (オプション) 以下の情報を含んだ更新パッケージを記述する README ファイルを作成します。
   - バージョン履歴の報告
   - 最小インストール要件
   - インストールとアンインストールの手順
   - あるバージョンから最新バージョンへの変更の報告
   - エンド・ユーザーに知らせる必要のある問題

   注：更新パッケージに README ファイルがない場合は、Update Retriever を使用して更新をインポートすることはできません。
3. (オプション) パッケージをインストールする前にエンド・ユーザーが同意しなければならない、ライセンスあるいはエンド・ユーザー使用許諾契約書 (EULA) を文書化したファイルを作成します。System Update は、パッケージがダウンロードされインストールされる前に、このファイルの内容をエンド・ユーザーに表示します。
4. ステップ 1 で作成した実行可能ファイルをテストします。
5. Update Retriever を使用して XML ディスクリプター・ファイルを作成します。詳しくは、Update Retriever のヘルプ・システムを参照してください。
6. **「ファイルを定義する」**パネルから、実行可能ファイル、ライセンス・ファイル、README ファイル、任意のオプション・ファイルまたは必須ファイルなどのインストーラーを追加します。Update Retriever は、XML ディスクリプターを完了すると、自動的にパッケージをビルドします。
7. Update Retriever リポジトリーに作成されたパッケージを検査します。
8. Update Retriever を使用して、パッケージをネットワーク共有リポジトリーにインポートします。53 ページの 『更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート』を参照してください。

注：更新パッケージの作成について詳しくは、Update Retriever のヘルプ・システムを参照してください。

更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート

手動でビルドしたカスタム更新パッケージ、あるいは Update Retriever を使用してカスタマイズしたカスタム更新パッケージは、Update Retriever を使用してネットワーク共有リポジトリーにインポートできます。更新がインポートされるときに、トリプレットには割り当てられません。トリプレットの値は、マシン・タイプに対して「未割り当て」としてリストされます。System Update によって認識されるには、カスタム更新を 1 つ以上のシステムに割り当てる必要があります。

更新パッケージをネットワーク共有リポジトリーにインポートし、トリプレット情報を再割り当てするには、以下の操作を実行します。

1. Update Retriever を起動します。
2. Update Retriever ナビゲーション・ペインで**「リポジトリーの管理」**をクリックします。
3. 「**更新のインポート**」をクリックします。
4. **「参照」**ボタンをクリックし、更新パッケージが入ったリポジトリーまで進みます。
5. 該当する更新パッケージを選択してから、「**OK**」をクリックします。
6. 「サブフォルダー検索」のボックスにチェック・マークを付けます (.xmls ファイルが root フォルダーにない場合)。
7. 「**次へ**」をクリックします。
8. 検出された更新パッケージを検討してから、**「インポート」**をクリックします。
9. **「更新ビュー」**をクリックすると、インポートされた更新が未割り当ての更新として表示されます。
10. 更新パッケージのチェック・ボックスを選択してから、**「システムの割り当て」**をクリックします。
11. 「システムの割り当て」ウィンドウで、該当するトリプレットのチェック・ボックスを選択するか、**「すべて選択」**チェック・ボックスを選択します。
12. **「保存」**をクリックします。

注：それぞれの更新パッケージは、それ自身のサブフォルダーに置かれている必要があります。1 つの更新パッケージのみをインポートする場合は、その更新パッケージを含むフォルダーを指定してください。複数の更新をインポートする場合は、複数の更新フォルダーを 1 つのフォルダーの中にまとめて、そのフォルダーを指定してください。

トリプレットの更新への割り当て

カスタム更新を 1 つ以上のシステムに割り当てることができます。リポジトリーに更新が表示されているとき、1 つ以上の更新を選択して、関連するトリプレットを選択することにより、それらの更新を 1 つ以上のシステムに割り当てることができます。

ネットワーク共有リポジトリーの内容レポートの生成

ネットワーク共有リポジトリーの内容のレポートを、Excel 形式 (CSV ファイル) で生成できます。このレポートでは、アクティブな更新、アーカイブした更新、非表示の更新、およびテスト更新を含むように選択できます。

設定の変更

デフォルトのリポジトリーとデフォルトの更新パッケージ状況を設定するには、Update Retriever ナビゲーション・ペインの**「設定の変更」**オプションを使用します。

- **更新のデフォルト状況**更新が Lenovo ヘルプ・センターから取得されるか、ローカル・リポジトリーにインポートされると、更新の状況は指定した値に設定されます。
- **リポジトリー**リポジトリー・フォルダーの場所はカスタマイズできます。ネットワーク共有が UNC パスを使用して指定されている場合は、実際の接続時にプロンプトを出す必要がないように、認証のためのユーザー名とパスワードを与えておくことができます。

履歴の表示

「**履歴の表示**」機能により、ダウンロード履歴とエクスポート履歴の詳細情報が表示されます。

ダウンロード履歴には、ThinkVantage Update Retriever によってリポジトリーにダウンロードされたすべての更新、および非表示になっているすべての更新の詳細情報が記載されています。

ダウンロード履歴を表示するには、次のようにします。

1. メインウィンドウの左側ペインで、「**履歴の表示**」をクリックします。「履歴の表示」ウィンドウが開きます。
2. 「ダウンロード履歴の表示」をクリックすると、以下の情報が表示されます。
   - **タイトル**: 更新のタイトル。
   - **バージョン**: 更新のバージョン番号。
   - **名前**: 更新の名前。
   - **ダウンロード時間**: 更新がダウンロードされた日付と時間 (現行の結果については表示されません)。

エクスポート履歴により、ターゲット・フォルダーにエクスポートされた更新に関する詳細情報が示されます。

エクスポート履歴を表示するには、次のようにします。

1. メインウィンドウの左側ペインで、「**履歴の表示**」をクリックします。「履歴の表示」ウィンドウが開きます。
2. 「エクスポート履歴の表示」をクリックすると、以下の情報が表示されます。
   - **エクスポート時間**: 更新がエクスポートされた日時。
   - **状況**: **「成功」**または**「失敗」** (および失敗の原因)。
   - **ソースの場所**: ドライバーの更新が保存されたリポジトリーのディレクトリ。
   - **ターゲットの場所**: エクスポートされたドライバーの更新が保存されたディレクトリ。
   - **サブフォルダー名**: エクスポートされたドライバーの更新が保存されたサブフォルダーの名前。エクスポートに失敗したドライバーの更新については、サブフォルダー名により、そのタイトルとバージョン番号が示されます。

更新の非表示

更新を非表示にできます。これは、将来、非表示にされた更新が関連していても (Lenovo ヘルプ・センターで) 表示されなくなることを意味します。以下の 2 つのオプションがあります。

- 更新の特定バージョンのみを非表示にする
- 更新のすべてのバージョンを非表示にする

将来、それらの更新を再び表示させたい場合は、それらの更新の非表示を解除する (表示にする) ことができます。

更新をエクスポート中

ThinkVantage Update Retriever により、リポジトリー内にあるドライバーの更新を指定のターゲット・フォルダーにエクスポートできます。エクスポート・プロセスにおいて、ドライバーの更新はそれぞれ 1 つのサブフォルダーに展開されます。展開されたドライバーの更新は、Microsoft System Center Configuration Manager や LANDesk Management Suite など、一般的なオペレーティング・システムの展開ツールに簡単にインポートし、統合や展開に使用できます。

注 : 更新をエクスポートする前に、Lenovo ヘルプ・センターから、ターゲット・システムに関連するドライバーの更新をリポジトリーにダウンロードしていることを確認してください。

ドライバーの更新をエクスポートするには、次のようにします。

1. メインウィンドウの左側ペインで、「**リポジトリーの管理**」をクリックします。メニューが展開し、リポジトリー管理の複数のオプションが表示されます。
2. メインウィンドウの右側ペインで「**更新のエクスポート**」をクリックし、ドライバーの更新のエクスポート・プロセスを開始します。
3. 「**フォルダー**」フィールドにターゲット・フォルダーのディレクトリーを入力するか、または「**参照**」をクリックしてターゲット・フォルダーを指定します。ターゲット・フォルダーが存在しない場合は、作成できます。
4. 「**次へ**」をクリックします。マシン・タイプ番号/オペレーティング・システム/言語リストからシステムを選択し、選択したシステムに割り当てられているドライバーの更新を選択するか、または**「すべて選択」**を選択して表示されているすべての更新を対象に含めます。
5. 必要に応じて、他のシステムについてステップ 4 を繰り返します。
6. 「**終了**」をクリックします。エクスポートが開始します。右側ペインでエクスポートの進行状況を確認できます。
7. エクスポートが完了すると、エクスポート結果とターゲット・フォルダーへのリンクが表示されます。結果へのリンクをクリックすると、エクスポートの履歴を参照できます。フォルダーへのリンクをクリックすると、展開されたドライバーの更新を含むターゲット・フォルダーが開きます。

注：ローカル・ドライブのリポジトリーではなくネットワークにあるリポジトリーから更新をエクスポートする場合、エクスポート処理中に展開する必要がある更新のたびに、「オープン・ファイル - セキュリティーの警告」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスが表示されないようにするには、Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーでローカルのイントラネット設定を、必要に応じて一時的または永続的に変更します。

Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーでローカルのイントラネット設定を変更するには、以下の操作を実行します。

1. Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーを開きます。
2. **「ツール」**をクリックし、**「インターネット オプション」**を選択します。
3. **「セキュリティ」**タブをクリックします。
4. **「ローカル イントラネット」**アイコンをクリックし、**「サイト」**をクリックします。
5. 「ローカル イントラネット」ダイアログ・ボックスが表示されます。**「イントラネットのネットワークを自動的に検出する」**チェック・ボックスがオンの場合、オフにして**「すべてのネットワーク パス (UNC) を含める」**を選択します。また、システム管理者から指示されていない限り、**「ほかのゾーンにないローカル (イントラネット) のサイトをすべて含める」**と**「プロキシ サーバーを使用しないサイトをすべて含める」**もオンにすることをお勧めします。
6. **「OK」**をクリックして、ローカル・イントラネット設定を保存します。
7. **「セキュリティ」**タブで**「既定のレベル」**をクリックしてデフォルトのセキュリティ・レベルを表示します。セキュリティー・レベルが**「中低」**または**「低」**に設定されている場合、その他の変更は不要です。それ以外の場合は、ステップ 8 へ進みます。
8. セキュリティ・レベルが**「高」**、**「中高」**、**「中」**、または**「カスタム」**に設定されている場合、セキュリティ・レベル・スライダーを動かしてセキュリティ・レベルを**「中低」**(デフォルト設定) に変更します。ただし、セキュリティ・レベルを**「中低」**よりも高く設定し、さらにセキュリティ設定をカスタマイズして、「オープン・ファイル - セキュリティーの警告」ダイアログ・ボックスを表示しないように設定できます。セキュリティ設定をカスタマイズするには、以下の操作を実行します。
   a. **「レベルのカスタマイズ」**をクリックします。「セキュリティ設定 - インターネット ゾーン」ダイアログ・ボックスが表示されます。
   b. **「アプリケーションと安全でないファイルの起動」**オプションを探します。
   c. **「有効にする」**を選択します。
   d. 「**OK**」をクリックします。確認のダイアログ・ボックスが表示されます。
   e. 選択を確認するには、**「はい」**をクリックします。
   f. 「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスを終了するには**「OK」**をクリックします。

Keyboard shortcuts

次の表は、Update Retriever の主要機能のキーボード・ショートカットを示しています。

表 18. Keyboard shortcuts

機能	ショートカット
新規更新の取得	CTRL+G
更新ビュー (更新の表示)	CTRL+U
レポートの作成	CTRL+R
更新のインポート	CTRL+I
更新のスケジュール	CTRL+S
更新ビュー (非表示更新の復元)	CTRL+H
更新ビュー (アーカイブの管理)	CTRL+A
設定の変更	CTRL+E
ダウンロード履歴の表示	CTRL+T

第 6 章 Thin Installer の作業

この章では、Thin Installer の使用方法と、ニーズに合わせて Thin Installer を設定する方法について説明します。

Thin Installer について

Thin Installer は、IT 管理者が環境内のシステムを最新状態に保つことができるように設計されています。また、ユーザーが作成したリポジトリーから更新パッケージを検索します。このリポジトリーは、ローカル・ハードディスク・ドライブ、ネットワーク共有、Web 共有 (HTTP) または外部メディア (CD、DVD、または USB ハードディスク・ドライブなど) に配置できます。Thin Installer は、使用しているコンピューターのマシン・タイプ、モデル番号、およびその他のシステム情報を自動的に認識し、入手可能な更新パッケージがシステムに必要かどうか判別します。2 つ以上のパッケージが関連する場合、すべての更新パッケージをダウンロードしてインストールします。更新パッケージは手動、または自動でインストールするように設定できます。

Thin Installer は System Update の軽量バージョンです。System Update とは異なり、Thin Installer にインストールは必要ありません。またレジストリ キーは作成されず、サービスもありません。Thin Installer に関連するすべてのファイルは、単一のフォルダーにあります。

Thin Installer は、次の Lenovo サポート Web サイトで入手できます。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu

Thin Installer は、以下のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows XP Professional Service Pack 2 以降 (32 ビットのみ)
- Windows 2000 Professional (Service Pack 4)

注：Thin Installer では、Microsoft .NET Framework 1.1 Service Pack 1 以降が必要です (Microsoft .NET Framework 2.0 以降が推奨されます)。

Thin Installer の構成

Thin Installer には、設定を構成する XML ファイルである ThinInstaller.exe.configuration が用意されています。XML ファイルは、Thin Installer フォルダーのルートにあります。

デフォルト構成は次のとおりです。

```
<Configuration>
 <RepositoryPath></RepositoryPath>
 <LogPath></LogPath>
 <LanguageOverride>EN</LanguageOverride>
 <BlockSize>4096</BlockSize>
 <AskBeforeClosing>NO</AskBeforeClosing>
 <DisplayLicenseNotice>NO</DisplayLicenseNotice>
 <IgnoreLocalLicense>YES</IgnoreLocalLicense>
 <IgnoreRMLicCRCSize>YES</IgnoreRMLicCRCSize>
 <DebugEnable>NO</DebugEnable>
 <ContentMode>Active</ContentMode>
</Configuration>
```

表 19. 構成可能項目の説明

構成可能項目	説明	値	動作
RepositoryPath	リポジトリーのパスを指定します。デフォルトでは、Thin Installer フォルダーのサブディレクトリーにある更新パッケージが検索されます。	デフォルト値: 空	指定すると、Thin Installer は、指定したリポジトリー・パスから更新パッケージを検索します。
LogPath	ログのパスを指定します。デフォルトでは、Thin Installer フォルダーのサブディレクトリーにログが作成されます。	デフォルト値: 空	指定したログのパスに Thin Installer が書き込み権がない場合、Thin Installer はデフォルトの位置にログが作成されます。
LanguageOverride	使用する言語を指定します。	デフォルト値: EN 可能な値: • DA • NL • EN • FI • FR • DE • IT • JP • KO • NO • PT • ES • SV • CHS • CHT	言語を指定されたものに変更します。
BlockSize	データのダウンロードごとに読み取られるバイト数を指定します。	デフォルト値: 4096 可能な値: • 4096 • 8192	バイト数を指定された数に設定します。
AskBeforeClosing	Thin Installer を終了するかどうかをユーザーに確認します。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、Thin Installer を閉じるかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。 • **NO** の場合、Thin Installer を閉じるかどうかを確認するダイアログ・ボックスは表示されず、Thin Installer はそのまま終了します。

表 19. 構成可能項目の説明 (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
DisplayLicenseNotice	更新パッケージのピック・リストが格納される前に表示される使用許諾契約をスキップできます。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、更新パッケージのピック・リストの前に使用許諾契約画面が表示されます。 • **NO** の場合、使用許諾契約画面は表示されません。
IgnoreLocalLicense	Thin Installer が更新パッケージをダウンロードおよびインストールしている際に、ライセンスのダイアログを表示または非表示にします。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、Thin Installer が更新パッケージをダウンロードおよびインストールしている際に、ライセンスのダイアログが表示されません。 • **NO** の場合、Thin Installer が更新パッケージをダウンロードおよびインストールしている際に、ライセンスのダイアログが表示されます。 **注**：一部の Microsoft 更新パッケージには、エンド・ユーザーがライセンスを受け入れる必要があります。これは、**IgnoreLocalLicense** 構成可能項目で無効にできません。
IgnoreRMLicCRCSize	Thin Installer でパッケージをダウンロードする際に、以下の機能を有効または無効に設定するには、この設定値を指定します。 • **CRC** - パッケージをダウンロードするときに、README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルが破損していないか検査します。 • **File size** - README ファイルおよび使用許諾契約書ファイルのファイル・サイズを検査します。	デフォルト値: YES 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、Thin Installer はこれらのファイルの破損またはサイズの検査をスキップします。 • **NO** の場合、Thin Installer はこれらのファイルの破損またはサイズの検査を行います。
DebugEnable	Thin Installer が、ApplicabilityRulesTrace.log という名前のログ・ファイルを作成するかどうかを指定します。64 ページの『ApplicabilityRulesTrace.log』を参照してください。	デフォルト値: NO 可能な値: • YES • NO	• **YES** の場合、Thin Installer はログ・ファイルを作成します。 • **NO** の場合、Thin Installer はログ・ファイルを作成しません。

表 19. 構成可能項目の説明 (続き)

構成可能項目	説明	値	動作
ContentMode	更新パッケージの状況を参照します。リポジトリーの更新パッケージの状況に応じて値を設定します。	デフォルト値: ACTIVE 可能な値: • Active • Test	• **Active** の場合、Thin Installer はアクティブ ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。 • **Test** の場合、Thin Installer はテスト ステータスの更新パッケージについて Update Retriever リポジトリーを検索します。 **注**：Update Retriever リポジトリー・フォルダーに database.xml ファイルがない場合、Thin Installer は **ContentMode** の値を無視し、すべての更新パッケージを検索します。

Thin Installer の使用

Thin Installer を使用するには、Lenovo サポート Web サイトから実行可能ファイルを展開し、リポジトリーのパスを構成します。リポジトリーを作成するには、47 ページの 第 5 章『Update Retriever の作業』を参照してください。デフォルトでは、Thin Installer フォルダーのサブディレクトリーにある更新パッケージが検索されます。

図 6. デフォルトのリポジトリー

別の場所を指定するには、Thin Installer フォルダーにある構成ファイルを使用するか、コマンド・ライン・パラメーターを使用します。

注：リポジトリーの場所を構成ファイルとコマンド・ラインの両方で指定している場合、コマンド・ラインの方が優先されます。

Thin Installer を使用するには、管理者権限が必要です。ソフトウェア配布エージェントで Thin Installer を呼び出す場合、Thin Installer はソフトウェア配布エージェント (通常は管理者権限) と同じ権限で実行します。

以下の表に、Thin Installer 用のコマンド・ライン・スクリプトを示します。%ANYPATH% は、Thin Installer ファイルが存在するディレクトリーを示します。

表 20. コマンド・ライン・スクリプト

スクリプト	説明
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search C -action LIST	デフォルト・リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、インストールの前に通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントで通知されます。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search R -action INSTALL	デフォルト・リポジトリーで重要および推奨の更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、更新パッケージ・ピック・リストを表示する前に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search A -action INSTALL -noicon	再起動の必要がないすべての重要、推奨、およびオプションのパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search C -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4	指定した再起動タイプを持つすべての重要なパッケージをインストールし、インストールの完了後に通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを表示しません。再起動タイプを持つパッケージは、システムを強制的に再起動またはシャットダウンします。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search R -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot	指定された再起動タイプを持つすべての重要および推奨のパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを表示しません。また、再起動タイプ 3 を持つパッケージのシステム再起動を行いません。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search A -action LIST -repository C:\MyRepository	重要、推奨、およびオプションの更新パッケージについてリポジトリーを検索し、インストールの前に通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを使用して通知します。
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search C -action INSTALL -repository C:\MyRepository	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、更新パッケージ・ピック・リストを表示する前に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。

表 20. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、指定された再起動タイプで使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、更新パッケージ・ピック・リストを表示する前に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。
%ANYPATH%\ThinInstaller.exe /CM –search C –action INSTALL –repository C:\MyRepository –log "C:\MyLogFolder\MyLogFile.txt"	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、更新パッケージ・ピック・リストを表示する前に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。ログ情報は、指定されたログ・ファイルに書き込まれます。
%ANYPATH%\ThinInstaller.exe /CM –search R –action INSTALL –repository C:\MyRepository –noicon –includerebootpackages 1,3,4 -noreboot	リポジトリーで重要、および推奨の更新パッケージを検索し、指定された再起動タイプで使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、更新パッケージ・ピック・リストを表示する前に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。

表 20. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
`%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository -includerebootpackages 1,3,4 -showprogress -noreboot`	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、指定された再起動タイプで使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 構成可能な項目の **DisplayLicenseNotice** を **NO** に設定していない場合は、検索の完了後に、使用許諾契約書に同意するようにメッセージが表示されます。 進行状況バーが表示され、個々の更新のインストールの進行状況と全体の進行状況が示されます。再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。
`%ANYPATH%\Thininstaller.exe /CM -search A -action LIST -repository C:\MyRepository -showprogress`	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、更新するリポジトリーを検索中は進行状況バーを表示します。

注：

1. BIOS のインストールは、ユーザーが注意する必要があり、無人モードでは展開できません。
2. BIOS のインストールによってシステムの再起動が強制されます。また、コマンド・ライン・パラメーター `–noreboot` では抑止できません。
3. Thin Installer では、その他すべての更新の後に BIOS の更新をインストールするため、再起動回数が減ります。

返されるエラー・コード

Thin Installer は、成功の場合はエラー・コード 0、更新パッケージの展開中に次の条件のいずれかに該当した場合はエラー・コード 1 を返します。

- 指定されたリポジトリーが検出されない。
- 更新パッケージにおいて、XML スキーマの妥当性検査が失敗した。
- 更新パッケージの実行可能ファイルにおいて、CRC の妥当性検査が失敗した。
- 更新パッケージのインストールが失敗した。
- Thin Installer 自体に障害がある。

例:

```
@echo off
CMD /C Exit 0
"%SystemDrive%\Program Files\Thininstaller\Thininstaller.exe" /CM -search A
-action install -includerebootpackages 1,3,4 -repository "C:\MyRepository"
–displayprogress –noreboot -noicon

if "%ERRORLEVEL%"=="1" @echo "Error Level 1...Fail"
if "%ERRORLEVEL%"=="0" @echo "Error Level 0...Successful"
```

ログ

Thin Installer は、展開中に次のログ・ファイルを作成します。

- %ComputerName%Installation.log
- ApplicabilityRulesTrace.log

- Update_log_YYMMDDHHMMSS.txt

%ComputerName%Installation.log

このログは、デフォルトで作成され、シンプルな形式でクライアント・コンピューターにインストールされる各更新パッケージの履歴を保守します。ログの名前はホスト名に基づき、次のような形式です。

```
MTM: 94626SM
OS: Windows Vista
OSLang: EN

Package ID : Package Description : Date : Installation status

6hcx41ww : ThinkVantage Access Connections : 8/27/2009 Success
6qwc03ww : Intel Wireless WiFi Link for Windows XP : 8/27/2009 Fail
```

以降の配置時に、各更新のステータスが付加されます。

Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムの場合、ログは次のディレクトリーに作成されます。
`C:¥ProgramData¥Lenovo¥ThinInstaller`
Windows XP オペレーティング・システムの場合、ログは次のディレクトリーに作成されます。
`C:¥Documents and Settings¥All users¥Application Data¥Lenovo¥Thin Installer`

ApplicabilityRulesTrace.log

このログが作成されるのは、構成ファイルの **DebugEnable** 構成可能項目が **Yes** に設定されている場合です。このログを使用すると、特定の更新パッケージをクライアント・コンピューターに適用できる理由がわかります。このログでは、更新パッケージごとに、2 つのエントリがあります。

- DetectInstall: **True** の場合、更新パッケージがクライアント・コンピューターに既に存在していることを示します。**False** の場合、更新パッケージが存在せず、クライアント・コンピューターに適用できる可能性があることを示します。
- Dependencies: **True** の場合、すべての依存関係に適合していることを示します。**False** の場合、1 つまたは複数の依存関係に適合していないことを示します。依存関係は、オペレーティング・システム、32 ビットまたは 64 ビット、レジストリー・キー、バージョン、または前提条件の組み合わせです。このログは、Thin Installer フォルダーのサブディレクトリーに作成されます。

Update_log_YYMMDDHHMMSS.txt

デフォルトでは、Thin Installer フォルダーのサブディレクトリーにログが作成されます。

Windows Vista および Windows 7 の考慮事項

Thin Installer が再起動タイプ 1 または 4 で更新パッケージのインストールを完了すると、システムは自動的に再起動されます。インストールされていない更新パッケージが残っている場合には、このプログラムは再起動後にこれらの更新パッケージのインストールを自動的に続行します。

Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムにおける考慮事項としては、Windows デスクトップへのログオン後に、UAC が原因で残りの更新パッケージのインストールが続行されないことが挙げられます。残りの更新パッケージをインストールするには、手動で、システム・トレイに表示される**「スタートアップ プログラムの一部が Windows でブロックされています」**というメッセージをクリックし、**「ブロックされたプログラムの実行」**を選択して Thin Installer を実行します。

注：システム・トレイに**「スタートアップ プログラムの一部が Windows でブロックされています」**というメッセージが表示されない場合、手動で Thin Installer を実行し、残りの更新パッケージを検索し、インストールする必要があります。

重要: UAC が有効になっており、ユーザーがビルトインの管理者ではない場合、UNC 共用フォルダーに対する認証が失われる場合があります。これを防ぐには、ForVistaUnc.reg という名前のレジストリー・ファイルを Thin Installer のパッケージ・ファイルが解凍されているフォルダーに適用して、レジストリー・キーを追加する必要があります。以下に、そのレジストリー・キーを示します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\policies\system]
REG_DWORD "EnableLinkedConnections" = 1
```

Web サーバー構成

IIS (Internet Information Server) 6.0 以降は、不明な MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions) タイプをサービスしません。Thin Installer が、Web サーバに定義されていない MIME タイプ (.sys) を要求する場合、その MIME タイプは、Web サーバの MIME タイプ・リストに追加する必要があります。MIME タイプを追加するには、次の Web サイトに記載されている詳細な手順を参照してください。
http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc725608(WS.10).aspx

ベスト・プラクティス

Thin Installer の操作のベスト・プラクティスについては、67 ページの 第 7 章『ベスト・プラクティス』の73 ページの 『シナリオ 8 - Thin Installer の作業』を参照してください。

Thin Installer のアンインストール

Thin Installer が更新パッケージのインストールを完了した際に、Thin Installer 関連のレジストリー・キーまたは一時ファイルが作成されることはありません。そのため、Thin Installer をアンインストールするには、リポジトリー・フォルダーおよび関連するすべてのファイルを削除するだけで完了します。

第 7 章　ベスト・プラクティス

この章では、更新の処理についての理解が深まるように、手順に基づいたシナリオを説明します。
この章で説明するシナリオは次のとおりです。

シナリオ 1 - 更新処理を管理する

以下のステップでは、System Update および Update Retriever を使用した更新処理を管理するためのベスト・プラクティスを示します。更新処理の概念については、1 ページの 『更新処理を管理する』を参照してください。

ステップ 1 - プログラムのインストール

System Update および Update Retriever をインストールするには、次の手順で行います。

1. リポジトリーに使用するための新規フォルダーをサーバーに作成します。
2. その新しいリポジトリー・フォルダーを UNC を使用して共有にします。UNC パスを使用すれば、そのリポジトリーにマップされたすべての PC が接続できるようになります。UNC パスの形式は次のとおりです。

   ```
   \\server\share
   ```

   例:

   ```
   \\Server_X\TVSU_repository\
   ```

3. 新規リポジトリー・フォルダーのエンド・ユーザーに対するアクセス許可を、読み取り専用アクセスに設定します。
4. Update Retriever を管理者コンピューターにダウンロードします。Update Retriever は次の Lenovo Web サイトからダウンロードできます。
   http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
5. Update Retriever をサイレント・インストールするには、それぞれのプログラムに対して、コマンド・プロンプトで以下のコマンドを入力します。

   ```
   setup.exe -s -a /s /v" /qn" /L1033
   ```

L1033 は英語用の言語コードです。サイレント・スクリプトで使用される言語コードは、該当のシステムの地域設定に設定されている言語と同じである必要があります。他の言語コードの使用については、8 ページの 『System Update の言語』 を参照してください。さらに、Update Retriever を起動するとき、ユーザーはローカル管理者グループに所属するユーザーとしてログオンする必要があります。

注：Update Retriever をインストールした後で、システムを再起動し、スケジューラー機能を設定してください。Update Retriever のスケジューラー機能を使用しない場合、再起動の必要はありません。

6. 次の Lenovo Web サイトから System Update ファイルをダウンロードします。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-ADMIN#tvsu
7. 以下のコマンドをコマンド・プロンプトから入力して、サイレント・モードで System Update をインストールします。

```
setup.exe -s -a /s /v" /qn" /L1033
```

注：

a. System Update をインストールした後で、システムを再起動し、スケジューラー機能を設定してください。System Update のスケジューラー機能を使用しない場合、再起動の必要はありません。
b. Windows 7 オペレーティング・システムの System Update にはスケジューラー設定がありません。これは Windows 7 オペレーティング・システムのタスク・スケジューラー・ツールに同じ機能があるためです。

ステップ 2 - プログラムのカスタマイズ

System Update の設定を、Active Directory またはレジストリーを使用してカスタマイズします。レジストリーを使用して設定をカスタマイズするには、次のコマンドを使用して、構成済みの start.reg ファイルで、System Update をインストールするためにバッチ・ファイルを作成します。

```
START /WAIT setup.exe -s -a /s /v" /qn" /L1033
xcopy start.reg "C:\Program Files\Lenovo\System Update\start.reg" /Y
```

注：System Update のデフォルトとして start.reg ファイルのカスタム設定を保存するには、カスタマイズした start.reg ファイルの内容を default.reg ファイルにコピーし、default.reg ファイルを保存します。デフォルト設定は、次のようにレジストリー・キーの破損などの予期せぬイベントが発生した場合に復元されます。

```
START /WAIT setup.exe -s -a /s /v" /qn" /L1033
xcopy start.reg "C:\Program Files\Lenovo\System Update\start.reg" /Y
rename "C:\Program Files\Lenovo\System Update\Default\default.reg"
 "C:\Program Files\Lenovo\System Update\Default\default.reg.bak"
xcopy start.reg "C:\Program Files\Lenovo\System Update\Default\start.reg" /Y
rename "C:\Program Files\Lenovo\System Update\Default\start.reg"
 "C:\Program Files\Lenovo\System Update\Default\default.reg"
```

レジストリーを使用しての System Update のカスタマイズと start.reg ファイルの作業について詳しくは、16 ページの 『レジストリーを使用した System Update の構成』 を参照してください。Active Directory を使用しての System Update のカスタマイズについて詳しくは、30 ページの 『Active Directory を使用した System Update の構成』 を参照してください。

ステップ 3 - プログラムでの作業

ネットワークにパッケージをダウンロードし、Update Retriever を使用して XML ディスクリプター・ファイルを編集して、次に System Update を使用してパッケージをダウンロード、インストールするには、以下の手順を実行します。

1. Update Retriever を使用して更新パッケージを取得します。
2. Update Retriever を使用して、更新パッケージの XML ディスクリプター・ファイルを編集します。

3. Update Retriever を使用して、更新パッケージをネットワーク共有リポジトリーにインポートし直します。
4. System Update を使用して、更新パッケージをネットワーク共有リポジトリーで検索します。
5. 更新パッケージをクライアント・コンピューターにダウンロードしインストールします。

シナリオ 2 - 特定の更新パッケージのデプロイ

クライアント・コンピューターに特定の更新パッケージを選択してデプロイする企業の場合は、System Update、Update Retriever、およびリポジトリー・フォルダーを構成して、選択した更新パッケージのみをデプロイすることができます。以下に、特定の更新パッケージをデプロイするためのリポジトリー・フォルダーの作成、System Update の構成、および Update Retriever での作業の手順を段階的に説明します。

リポジトリー・フォルダーの作成

リポジトリー・フォルダーを作成して更新パッケージを保存するには、次の手順で行います。

1. 新規リポジトリー・フォルダーを、System Update がクライアント・コンピューターの特定の更新パッケージを取得するために使用するサーバー上に作成します。
2. そのリポジトリー・フォルダーを UNC を使用して共有にします。UNC パスを使用すれば、次のように、そのリポジトリーにマップされたすべての PC が接続できるようになります。

```
\\Server_X\SystemUpdate_repository\
```

3. 新規リポジトリー・フォルダーのエンド・ユーザーに対するアクセス許可を、読み取り専用アクセスに設定します。
4. 別の新規フォルダーを、Update Retriever を使用して Lenovo ヘルプ・センター Web サイトからダウンロードした更新パッケージ用のリポジトリーとして使用するサーバー上に作成します。
5. 次のように、そのリポジトリー・フォルダーを UNC を使用して共有にします。

```
\\Server_X\UpdateRetriever_repository\
```

クライアント・コンピューターでの System Update の構成

特定の更新パッケージをクライアント・コンピューターにダウンロードするために System Update を構成するには、以下の操作を実行します。

1. クライアント・コンピューターで、次のレジストリー項目に進みます。

```
HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\
UserSetting\General\RepositoryLocation1
```

2. 月のように、デフォルトの **SUPPORTCENTER** 値を、ご使用のサーバーと、69 ページの 『リポジトリー・フォルダーの作成』のステップ 1 で作成した System Update のリポジトリー・フォルダーの共有名に置き換えてこの設定値を変更します。

```
\\Server_X\SystemUpdate_repository\
```

注：グループ ポリシーを使用してこのレジストリー変更をデプロイするために、Active Directory を使用することもできます。Active Directory およびグループ ポリシーでの作業について詳しくは、30 ページの 『Active Directory を使用した System Update の構成』を参照してください。

Update Retriever の作業

Update Retriever を使用して、Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから 69 ページの 『リポジトリー・フォルダーの作成』のステップ 4 で作成した Update Retriever リポジトリーに更新パッケージをダウンロードするには、以下の手順を実行します。

1. 管理者システムで Update Retriever を起動します。
2. 「ようこそ」画面で、以下の「**最初のセットアップ**」要件を完了します。
   a. **「リポジトリー・パス」**フィールドで、ステップ 4 で作成した新規 Update Retriever リポジトリーのディレクトリー・パスを入力します。
   b. Update Retriever リポジトリーとして使用するネットワーク共有ドライブのユーザー名とパスワードを、**「ユーザー名」**と**「パスワードのフィールド」**に入力します。
3. **「新規更新の取得」**パネルで、**「追加」**をクリックします。
4. 「新規システムの追加」ウィンドウで、トリプレット設定のために以下の手順を完了します。
   a. 該当のマシン・タイプを入力します。マシン・タイプは、ノートブック・コンピューターの底面、あるいはデスクトップ・コンピューターの背面に見つかります。
   b. 適用可能なオペレーティング・システムを選択します。
   c. 適用可能な言語を選択します。
   d. 「**追加**」をクリックしてから、「**保存**」をクリックします。
5. **「新規更新の取得」**パネルで、該当するマシン・タイプを示すチェック・ボックスを選択します。マシン・タイプの更新パッケージをすべてインポートするには、**「すべて選択」**チェック・ボックスを選択します。
6. **「次へ」**をクリックしてから、**「完了」**をクリックして、適用可能な更新パッケージの検索を開始します。Update Retriever は、更新パッケージを指定されたリポジトリー・フォルダーに入れます。

パッケージのデプロイ

リポジトリー・フォルダーを作成し、クライアント・コンピューターに System Update を構成して、さらに Update Retriever で更新パッケージをダウンロードしてから、以下の手順を実行して特定の更新パッケージをクライアント・コンピューターにデプロイします。

1. Update Retriever の**「設定の変更」**パネルで、リポジトリー・パスを69 ページの 『リポジトリー・フォルダーの作成』のステップ 1 で作成した System Update リポジトリー・パスに変更します。
2. Update Retriever を使用して、ご使用の更新パッケージを System Update リポジトリーにインポートします。

   注：更新パッケージをリポジトリー・フォルダーにインポートする方法の詳細については、53 ページの 『更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート』を参照してください。
3. クライアント・コンピューターで System Update を起動します。
4. System Update を使用して、更新パッケージを System Update リポジトリーで検索します。

   注：更新パッケージをリポジトリー・フォルダーにインポートした後で、必ず更新パッケージにマシン・タイプを割り当ててください。これにより、マシン・タイプで特定される更新パッケージを System Update で検索することができます。更新パッケージのインポートについて詳しくは、53 ページの 『更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート』を参照してください。
5. 更新パッケージをクライアント・コンピューターにダウンロードしインストールします。

シナリオ 3 - 他社製システムへの導入

Lenovo Web サイトから開始した更新パッケージは、他社製システムには導入できません。他社製システムに導入可能なカスタム更新パッケージを作成するには、以下のステップを実行します。

1. Update Retriever および System Update を管理者コンピューターにインストールします。
2. インストールが終了したら、コンピューターを再起動します。
3. 必要なホット・フィックスをインストールするために install.bat ファイルを実行します。
4. System Update を起動して、次のように他社製システムのマシン・タイプを入手します。

```
'Machine type' = 'Presario R3000'
```

5. Update Retriever を起動し、リポジトリー・パスを設定します。

   注：必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
6. 更新を割り当てるためのシステムを追加し、他社製システムのマシン情報を保存します。マシン・タイプおよびモデルの最初の 4 文字または最後の 4 文字で構成されるマシン・ファミリー情報を入力します。
7. Update Retriever を使用して、他社製システム用の更新パッケージを作成します。

   注：更新を特定のモデルに適用するために、XML ディスクリプター・ファイルの**「依存関係」**セクションに**「サポートされるシステム」**方式を追加します。
8. XML ディスクリプターを保存します。
9. 更新パッケージを Update Retriever リポジトリーにインポートし、他社製システムのトリプレットに更新を再割り当てします。53 ページの 『更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート』を参照してください。
10. System Update リポジトリーを構成します。

シナリオ 4 - System Update の Web アップグレードを無効にする

System Update は、ローカル・システムまたはネットワーク共有のローカル・リポジトリーに接続されていても、Lenovo ヘルプ・センター Web サイトでアップグレードをチェックします。インターネットに接続できない場合、System Update は自身のアップグレードをチェックしません。

この機能を無効にするには、以下の操作を実行して、レジストリー値をクリアします。

1. 次のレジストリー項目に進みます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
\Preferences\UCSettings\HTTPSHelloSettings\ServerName
```

2. 次のように、ServerName 文字列の値を削除します。

```
https://download1.boulder.ibm.com/ibmdl/pub/pc/pccbbs/agent/
```

3. 「**OK**」をクリックします。

シナリオ 5 - MSDOS プロンプトを使用した特定の更新パッケージのインストール

MSDOS プロンプトを使用して System Update 向けの特定の更新パッケージをインストールできます。特定の更新パッケージをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 次のように、ローカル・ハードディスク・ドライブに installtxt という名前の新規フォルダーを作成します。

```
C:\installtxt
```

2. メモ帳を使用して、installList.txt という名前の TXT ファイルを作成します。
3. TXT ファイルで、たとえば次のように、ターゲット・クライアント・コンピューターのパッケージ ID を入力します。

```
1rg807ww
7ad123ww
7bwc14ww
bs09az00ibm
css7upgrade2_ww
kb896613tc
```

4. C:¥installtxt フォルダーに TXT ファイルを保存します。
5. MSDOS プロンプトで、System Update のインストール・パス `C:¥Program Files¥Lenovo¥System Update¥` に移動します。
6. ファイル・パス、アプリケーション実行可能ファイル名、および TXT ファイルの名前を、たとえば、次のように入力します。

```
tvsu.exe /package "C:\installtxt\ installList.txt"
```

7. Enter キーを押します。

シナリオ 6 - クライアント・コンピューターのリポジトリーにパッケージをデプロイする

ネットワーク共有ドライブ・リポジトリーを使用することに対しての代替案の 1 つは、クライアント・コンピューターのリポジトリーにパッケージをデプロイすることです。クライアント・コンピューターのリポジトリーに更新パッケージをデプロイするには、以下の手順を実行します。

ステップ 1 - 管理者システムのセットアップ

管理者システムをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. 更新パッケージを保存するリポジトリーとして使用するために、ネットワーク共有ドライブまたは管理者システム上に新規フォルダーを作成します。
2. Update Retriever を起動し、リポジトリー・パスを設定します。

   注：必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. 新規更新パッケージを Lenovo Help Center Web サイトから取得します。
4. クライアント・コンピューターのリポジトリーとして使用するために、もう 1 つのフォルダーを作成します。
5. Update Retriever を使用して、ご使用の更新パッケージをクライアント・コンピューターのリポジトリーにインポートします。

   注：パッケージをリポジトリー・フォルダーにインポートする方法の詳細については、53 ページの『更新パッケージのネットワーク共有リポジトリーへのインポート』を参照してください。
6. クライアント・コンピューターのリポジトリーとして使用するフォルダーをクライアント・コンピューターにデプロイします。

ステップ 2 - クライアント・コンピューターでの System Update の構成

特定の更新パッケージをクライアント・コンピューターにダウンロードするために System Update を構成するには、以下の操作を実行します。

1. クライアント・コンピューターで、次のレジストリー項目に進みます。

```
HKLM\SOFTWARE\Lenovo\System Update\Preferences\
UserSetting\General\RepositoryLocation1
```

2. この設定を変更するには、次のように、デフォルトの **SUPPORTCENTER** 値をクライアント・コンピューターのリポジトリー・パスに置き換えて、この設定を変更します。

```
%ANYDRV%\SystemUpdate_repository\
```

注：グループ ポリシーを使用してこのレジストリー変更をデプロイするために、Active Directory を使用することもできます。Active Directory およびグループ ポリシーでの作業について詳しくは、30 ページの 『Active Directory を使用した System Update の構成』を参照してください。

シナリオ 7 - ファイアウォールとスケジューラー機能の作業

ファイアウォールがあるセキュリティー・プログラムを使用する場合、そのセキュリティー・アプリケーションで System Update Scheduler 機能へのインターネット・アクセスが確実にできるようにしてください。System Update スケジューラー機能へのインターネット・アクセスを有効にするには、以下の操作を実行します。

1. System Update がファイアウォール・アプリケーションを介して通信できるようにします。
2. パス: %PROGRAMFILES%¥Lenovo¥System Update に進みます。
3. 次のプログラムを有効にします。
   - TvsuCommandLauncher.exe
   - Tvsukernel.exe

注：Windows 7 オペレーティング・システムの System Update にはスケジューラー設定がありません。これは Windows 7 オペレーティング・システムのタスク・スケジューラー・ツールに同じ機能があるためです。

シナリオ 8 - Thin Installer の作業

Thin Installer は常に、リポジトリー・フォルダーで database.xml ファイルの有無を最初にチェック します。Update Retriever を使用してリポジトリーを作成済みである場合、database.xml ファイルは同じフォルダー内に作成されています。database.xml ファイルは、マシン・タイプ、オペレーティング・システム、および言語を、それぞれ更新パッケージに関連付けます。リポジトリーに database.xml ファイルが存在しない場合、Thin Installer は、リポジトリー内のすべての更新パッケージを候補のパッケージとみなします。候補となるパッケージは、クライアント・コンピューターに適用可能なパッケージです。Update Retriever について詳しくは、47 ページの 第 5 章『Update Retriever の作業』を参照してください。

USB、CD、または DVD メディアを使用したパッケージのデプロイ

この方式は、システム管理者が更新パッケージを独立してインストールする場合に最適です。

1. クライアント・コンピューターにインストールする必要のある更新パッケージで、リポジトリー・フォルダーを作成します。
2. ステップ 1 で作成したリポジトリー・フォルダーの親フォルダーになるように、Thin Installer をインストールします。
3. フォルダー構造を外部メディア (USB キー、CD、DVD など) にコピーします。
4. ThinInstaller.exe ファイルを起動し、インストールが必要な更新パッケージを選択します。

ネットワーク共有リポジトリーを使用した更新パッケージのデプロイ

この方法は、センター・リポジトリーを使用してさまざまなタイプのシステムを管理する場合に便利です。クライアント・コンピューターには、ネットワーク共有リポジトリーへの読み取りアクセス権限が必要です。

1. リポジトリー・フォルダーを作成し、Update Retriever を使用してネットワーク共有に更新パッケージをダウンロードします。Update Retriever の使用法については、67 ページの 『ステップ 1 - プログラムのインストール』を参照してください。
2. クライアント・コンピューターに Thin Installer をインストールします。
3. コマンド・スクリプトをクライアント・コンピューターに配信し、ThinInstaller.exe ファイルをネットワーク共有から実行します。使用できるオプションについては、60 ページの 『Thin Installer の使用』を参照してください。

システム管理ツールを使用した更新パッケージのデプロイ

この方式は、システム用の更新パッケージが既に判明している場合に便利です。

1. デプロイする必要のある、システムに固有の更新パッケージで、リポジトリー・フォルダーを作成します。
2. ステップ 1 で作成したリポジトリー・フォルダーの親フォルダーになるように、Thin Installer をインストールします。
3. システム管理ツールを使用して上記のフォルダー構造からモジュールを作成し、デプロイします。

注：Thin Installer から戻されるエラー・コードを使用して、ターゲット・システムの更新パッケージの状況を追跡管理することができます。

Thin Installer と ImageUltra Builder の統合

この方法は、イメージのロールアウト時に共通のドライバーとアプリケーションをデプロイする場合に最適です。システム管理者は、さまざまなタイプのシステムに対して、1 つの センター・リポジトリーと 1 つのイメージを維持します。

1. ネットワーク共有リポジトリーを作成し、Thin Installer をインストールします。リポジトリー・フォルダーにネットワーク共有に作成する方法について詳しくは、69 ページの 『リポジトリー・フォルダーの作成』を参照してください。
2. Thin Installer 実行可能ファイルをネットワーク共有ドライブから実行するために、バッチ・ファイルを作成します。
3. ImageUltra Builder モジュールを作成し、起動タイプを監査して、ステップ 2 で作成したバッチ・ファイルを使用します。
4. ImageUltra Builder のベース・マップに、このモジュールを追加します。
5. イメージをデプロイする。Thin Installer はドライバーおよびアプリケーションをクライアント・コンピューターにインストールします。

注：

1. Thin Installer がネットワーク共有リポジトリーにアクセスするには、さらに、事前にネットワーク・ドライバーをインストールする必要があります。
2. 状況によっては、ImageUltra Builder プログラムを使用して一部のドライバーをインストールする必要があります。

もう 1 つのオプションとして、ImageUltra Builder モジュールを作成し、起動タイプを監査し、更新パッケージと Thin Installer を使用してイメージをデプロイする方法もあります。この場合は、更新パッケージがリポジトリーからではなくローカル側で実行されます。

ImageUltra Builder プログラムについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。
http://www.lenovo.com/support/site.wss/document.do?lndocid=MIGR-61432#image

Thin Installer と Sysprep イメージとの統合

このシナリオは、Thin Installer を ImageUltra Builder プログラムと統合する場合と同様ですが、ImageUltra Builder プログラムを使用せずにイメージがロールアウトされるという点が異なります。

1. ネットワーク共有リポジトリーを作成し、Thin Installer をインストールします。ネットワーク共有リポジトリーを作成する方法について詳しくは、69 ページの 『リポジトリー・フォルダーの作成』を参照してください。
2. Thin Installer 実行可能ファイルをネットワーク共有ドライブから実行するために、バッチ・ファイルを作成します。
3. イメージをデプロイする。Thin Installer はドライバーおよびアプリケーションをクライアント・コンピューターにインストールします。

付録 A　コマンド・ライン・パラメーター

この章では、コマンド・ライン・パラメーター、検索モード、通知パラメーター、および MapDrv ユーティリティーについて説明します。

自動検索

次の表に、ローカル・システム、ネットワーク共有、リムーバブル・デバイス、または Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから更新を検索するときに自動検索に使用できるレジストリ・エントリと値を示します。

表 21. リポジトリーの場所とコマンド・ライン

RepositoryLocation レジストリー項目	コマンド・ライン	検索されるリポジトリー
RepositoryLocation<N> この %N% は 1 ～ 20 の数値です。	SUPPORTCENTER	Lenovo Help Center Web サイト
RepositoryLocation<N> この %N% は 1 ～ 20 の数値です。	¥¥Server_X¥TVSU_repository¥	ネットワーク共有リポジトリー
RepositoryLocation<N> この %N% は 1 ～ 20 の数値です。	%ANYDRV%¥SystemUpdate3_x	ローカル・システム・リポジトリー
RepositoryLocation<N> この %N% は 1 ～ 20 の数値です。	%XMEDIA%¥SystemUpdate3_x	リムーバブル・デバイス上のリポジトリー

注：個別パッケージの使用許諾契約がある更新パッケージをダウンロードあるいはインストールしても、個別パッケージの使用許諾契約を承認することはできないため、更新パッケージは処理されません。さらに、使用許諾契約書を今後表示しないように設定しなかった場合、ダウンロード前に使用許諾契約書が表示されます。

コマンド・ライン・スクリプト

次の表は、デフォルトの位置である **SUPPORTCENTER** 設定を使用する場合に、System Update がサポートするコマンド・ライン・スクリプトを示しています。

表 22. コマンド・ライン・スクリプト

スクリプト	説明
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action DOWNLOAD`	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをダウンロードします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。

表 22. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action LIST	重要な更新に対するリポジトリーの検索。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action LIST	重要および推奨の更新をリポジトリーで検索します。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action DOWNLOAD	リポジトリーで重要および推奨の更新パッケージが検索され、使用許諾契約書を持たない更新パッケージがダウンロードされます。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL	リポジトリーで重要および推奨の更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action LIST	重要、推奨、およびオプションの更新をリポジトリーで検索します。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。

表 22. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action DOWNLOAD	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをダウンロードします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書と再起動の必要がない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -noicon	再起動の必要がないすべての重要パッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -noicon	再起動の必要がないすべての重要および推奨のパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -noicon	再起動の必要がないすべての重要、推奨、およびオプションのパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4	指定した再起動タイプの重要パッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。 再起動タイプを持つパッケージは、システムを強制的に再起動またはシャットダウンします。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4	指定した再起動タイプのすべての重要および推奨のパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。 再起動タイプを持つパッケージは、システムを強制的に再起動またはシャットダウンします。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4	指定した再起動タイプのすべての重要、推奨、およびオプションのパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。 再起動タイプを持つパッケージは、システムを強制的に再起動またはシャットダウンします。

表 22. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot`	指定した再起動タイプのすべての重要パッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot`	指定した再起動タイプのすべての重要および推奨のパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot`	指定した再起動タイプのすべての重要、推奨、およびオプションのパッケージをインストールし、インストール完了後に通知領域アイコンからのバルーン・ヒントを表示しません。

次の表は、更新パッケージの保存に 1 つのリポジトリーを使用している場合、System Update がサポートするコマンド・ライン・スクリプトを示しています。リポジトリーを指定しない場合、System Update はデフォルトのリポジトリーに保存します。

表 23. コマンド・ライン・スクリプト

スクリプト	説明
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action LIST -repository C:\MyRepository`	重要な更新に対するリポジトリーの検索。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action DOWNLOAD -repository C:\MyRepository`	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをダウンロードします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -repository C:\MyRepository`	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action LIST -repository C:\MyRepository`	重要および推奨の更新をリポジトリーで検索します。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。

表 23. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action DOWNLOAD -repository C:\MyRepository	リポジトリーで重要および推奨の更新パッケージが検索され、使用許諾契約書を持たない更新パッケージがダウンロードされます。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -repository C:\MyRepository	リポジトリーで重要および推奨の更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action LIST -repository C:\MyRepository	重要、推奨、およびオプションの更新をリポジトリーで検索します。 ダウンロードおよびインストール前に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action DOWNLOAD -repository C:\MyRepository	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない更新パッケージをダウンロードします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書と再起動の必要がない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされると、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されます。

表 23. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書と再起動の必要がない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon	リポジトリーで重要、および推奨の更新パッケージを検索し、使用許諾契約書と再起動の必要がない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書と再起動の必要がない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない指定された再起動タイプで更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプを持つパッケージはシステムを強制的に再起動またはシャットダウンします。

表 23. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4	リポジトリーで重要、および推奨の更新パッケージを検索し、指定された再起動タイプで使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプを持つパッケージはシステムを強制的に再起動またはシャットダウンします。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、指定された再起動タイプで使用許諾契約書を持たない更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプを持つパッケージはシステムを強制的に再起動またはシャットダウンします。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search C -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot	リポジトリーで重要な更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない指定された再起動タイプで更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。
%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search R -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot	リポジトリーで重要、および推奨の更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない指定された再起動タイプで更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。

表 23. コマンド・ライン・スクリプト (続き)

スクリプト	説明
`%PROGRAMFILES%\Lenovo\System Update\Tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -repository C:\MyRepository -noicon -includerebootpackages 1,3,4 -noreboot`	リポジトリーで重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索し、使用許諾契約書を持たない指定された再起動タイプで更新パッケージをインストールします。 使用許諾契約書のダイアログ・ボックスを無効にしていない場合、ダウンロードする前に、使用許諾契約書に同意するように求められます。 更新パッケージがインストールされた後に、通知領域のアプリケーション・アイコンから、バルーン・ヒントでユーザーに通知されません。 再起動タイプ 3 はシステムの再起動を行いません。

System Update が認証機能を持ったプロキシー・サーバー経由で自動検索を実行するときに、ユーザー名あるいはパスワードが保存されていないと、そのエンド・ユーザーのためのダイアログは表示されません。この場合、エラーが System Update ログ・ファイルに記録され、System Update はシャットダウンします。ユーザー名とパスワードが保存されていれば、System Update は保存されたユーザー名とパスワードの情報を使用してプロキシー サーバーと接続しようとします。接続あるいは自動検索の実行においてエラーが発生すると、そのエラーは System Update ログ・ファイルに記録され、System Update はシャットダウンします。

ターゲット・システムの自動的な再起動、あるいはシャットダウンを必要とする 1 つ以上の更新パッケージの集合を System Update でダウンロードしインストールする際、エンド・ユーザーに対して再起動/シャットダウンを通知する警告メッセージは何も表示されません。

注：コマンド・ライン・スクリプトは、今後のリリースで変更されることがあります。サイレント・コマンド・ライン・スクリプトおよびリポジトリーを使用して更新パッケージを保存する場合、使用許諾契約書付きの更新パッケージを認識するために、次のレジストリー値を **YES** に設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
\Preferences\UserSettings\General\IgnoreLocalLicense
```

検索モード

次の表は System Update でサポートされる検索モードのリストを示しています。

表 24. 検索モード

検索モード	説明
`-search C`	System Update が重要な更新パッケージを検索できるようにします。
`-search R`	System Update が重要および推奨の更新パッケージを検索できるようにします。

表 24. 検索モード (続き)

検索モード	説明
-search A	Lenovo ヘルプ・センターを検索する際、System Update が重要、推奨、およびオプションの更新パッケージのみを検索できるようにします。 **注：**ネットワーク共有リポジトリーを使用している場合、-search A コマンドを使用します。その結果、重要、推奨、およびオプションの更新パッケージがネットワーク共有リポジトリー・フォルダーから検索されます。

通知パラメーター

コマンド・ラインで使用する通知パラメーターは、System Update が更新パッケージを処理し、パッケージが処理されたときに通知する方法を指定します。

次の表に、パラメーターとその説明を示します。

表 25. 通知パラメーター

パラメーター	説明
-action LIST	更新パッケージが Lenovo ヘルプ・センター Web サイトから入手可能になったときに、System Update で通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを通知できるようにします。 バルーン・ヒントをクリックすると、使用許諾契約書のダイアログ・ボックス、または**「ご使用のシステムに対する更新」**画面が表示されます。使用許諾契約書のダイアログ・ボックスで**「再表示しないでください」**チェック・ボックスをオンにすると、以降、このダイアログ・ボックスは表示されません。
-action DOWNLOAD	更新パッケージがシステムにダウンロードされ、インストールできる状態になったときに、System Update で通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを通知できるようにします。 **「再表示しないでください」**チェック・ボックスにオフにした場合、System Update からダウンロードの実行前に使用許諾契約書に同意するように求められます。ダウンロードが完了すると、System Update はバルーン・ヒントを表示して通知します。バルーン・ヒントをクリックすると、**「据え置き更新のインストール」**画面が表示され、この画面を使用して希望する更新パッケージをインストールできます。

表 25. 通知パラメーター (続き)

パラメーター	説明
-action INSTALL	更新パッケージがダウンロードおよびインストールされたときに、System Update で通知領域のアプリケーション・アイコンからバルーン・ヒントを通知できるようにします。 **「再表示しないでください」**チェック・ボックスにオフにした場合、System Update からダウンロードの実行前に使用許諾契約書に同意するように求められます。更新パッケージのダウンロードおよびインストールが完了すると、System Update はバルーン・ヒントを表示して通知します。ダウンロードおよびインストールの進行状況を表示する場合、バルーン・ヒントをクリックすると、**「更新がインストールされました」**というメッセージが表示されます。 更新パッケージが再起動タイプ 1 または 4 を持つ場合、System Update は、指定された間隔でバルーン・ヒントを表示して、パッケージでご使用のシステムを再起動するように通知します。再起動通知を行うために指定する間隔は、21 ページの 表 11『¥UserSettings¥General』の **NotifyInterval** 設定値を指定するレジストリーで設定します。更新パッケージが再起動タイプ 3 を持つ場合、System Update は更新パッケージをダウンロードし、インストールして、再起動通知を出しますが、指定された間は再起動通知を行いません。それ以外の場合は、更新パッケージをダウンロードしてインストールした後で結果を表示します。
-SCHEDULER	System Update をスケジューラー機能から実行できるようにします。 **注**：このパラメーターはユーザー・インターフェースで更新するのではなく、レジストリーで更新するレジストリー項目です。
-repository <path>	リポジトリー・フォルダーを作成して更新パッケージを保存できます。 System Update は、指定されたリポジトリー・フォルダー内で更新パッケージを探します。
-NoIcon	System Update でパッケージの検出、ダウンロード、またはインストールが実行されたときに表示されるバルーン・ヒントをオフにできます。
-IncludeRebootPackages 1,3,4	System Update が指定された再起動タイプで更新パッケージをインストールするようにします。 再起動タイプには 1、3、または 4 を指定できます。次のリストは System Update でサポートされる再起動タイプの値を示しています。 • 1: パッケージによって強制的に再起動されます。 • 3: パッケージを有効にするには再起動が必要です。パッケージがすべてインストールされると、ソフトウェア配布クライアントは強制的に再起動します。 • 4: パッケージによって強制的にシャットダウンされます。

表 25. 通知パラメーター (続き)

パラメーター	説明
`-NoReboot`	システムが再起動タイプ 3 を持つ更新パッケージをインストールした後で、System Update が再起動を回避するようにします。ただし、パッケージが再起動タイプ 1 または 4 を持つ場合、このパラメーターは再起動またはシャットダウンを抑止できません。
`-clearhistory`	更新または上書きインストールの際、ヒストリーおよびセッション・フォルダーを保存するかまたは削除するかを制御できるようにします。デフォルトではヒストリーおよびセッション・フォルダーを保存します。
`-clearsettings`	更新または上書きインストールの際、構成可能な設定を保存するかまたは削除するかを制御できるようにします。デフォルトでは設定を保存します。
`-showprogress`	更新パッケージの検索およびインストールの処理中に、進行状況バーを表示できます。更新パッケージは管理者によって事前に選択されており、ユーザーは更新の選択を解除できません。インストールが完了すると、更新の進行状況画面は閉じます。結果を示す画面やアイコンは表示されません。 **注**：System Update はこの設定をサポートしません。

例:

```
tvsu.exe /CM -search A -action INSTALL -IncludeRebootPackages 1,3,4
```

次のリストは使用される検索モードと通知方式の説明を示しています。

- **-search A** - 重要、推奨、およびオプションの更新パッケージを検索します。
- **-action INSTALL** - 更新パッケージをインストールします。
- **-IncludeRebootPackages 1,3,4** - 再起動の必要な更新パッケージをダウンロードしてインストールします。

注：

1. `-IncludeRebootPackages 1,3,4` を含めない場合、System Update は再起動の必要なパッケージを検出しません。
2. Lenovo ヘルプ・センター Web サイトではなくローカル・リポジトリーを使用する場合、使用許諾契約書を自動的に認識するように System Update を構成するには、次のレジストリー値を「**YES**」に設定します。

   ```
   HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\System Update
   \Preferences\UserSettings\General\IgnoreLocalLicense
   ```
   使用許諾契約書の作業について詳しくは、43 ページの 『使用許諾契約書の作業』を参照してください。レジストリー設定値を **YES** に設定しない場合、System Update はコマンド・スクリプトを使用するときに、使用許諾契約書を持つパッケージを検出しません。

MapDrv ユーティリティー

MapDrv ユーティリティーは、System Update のネットワーク共有に関連した機能を提供します。ネットワーク共有情報定義するには、MapDrv ユーティリティーを使用してネットワーク共有の接続または切断を行います。MapDrv ユーティリティーは、このネットワーク共有の情報を、管理者のみがアクセスできることで保護されているレジストリー・キーに保持します。ネットワーク共有情報には、ネットワーク

共有名 (UNC 形式)、ユーザー名 (暗号化された文字列としてレジストリーに保存)、およびパスワード (暗号化された文字列としてレジストリーに保存) が含まれます。

MapDrv ユーティリティーは System Update のインストール・ディレクトリーに入っています。デフォルトのインストール・ディレクトリーは c:¥Program Files¥Lenovo¥System Update です。

ネットワーク共有情報は、次のレジストリー・エントリーに保存されています。
HKLM¥Software¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION

Active Directory ポリシーが使用される場合、これらの値は以下のレジストリー・エントリーに保存されます。
HKLM¥Software¥Policies¥Lenovo¥MND¥TVSUAPPLICATION

TVSUAPPLICATION キーに保存されている値は次のとおりです。

表 26. MapDrv の設定と値

ストリング	説明
UNC	このストリングの値は、保存されているネットワーク共有を示します。
User	このストリングの値は、この共有で保存されている暗号化されたユーザー名を示します。
Pwd	このストリングの値は、この共有で保存されている暗号化されたパスワードを示します。
NetPath	この値は MapDrv ユーティリティから生成され、実際の接続パスを示します。**ServerName** ストリングを使用できない場合、IP ドット形式が使用されることがあります。実際の接続パスは、保存されている **UNC** 値と異なることがあります。

MapDrv ユーティリティーを使用すると、管理者は暗号化エンジンを使用して暗号化されたユーザー名とパスワードを生成することができ、これらを使用して複数システムでネットワーク共有情報を定義できます。このように暗号化エンジンを使用しても、システムのレジストリーが更新されることはありません。

コマンドライン・インターフェース

MapDrv ユーティリティーのコマンド・ライン・インターフェースは次のとおりです。

```
mapdrv /<function> <app id> /unc <sharename> /user <username> /pwd <password>
[/timeout <seconds>] [ /s]
```

表 27. パラメーター

パラメーター	説明
/ function	実行する機能を識別します。有効な値は、store (保存)、connect (接続)、disconnect (切断)、および display (表示) です。
app id	アプリケーションを識別します。指定された値は、次のようにネットワーク共有情報が入ったレジストリー・キー名を形成するために使用されます。TVSUAPPLICATION.
/unc *sharename*	保存するネットワーク共有名を識別します。共用名は次のように UNC 形式にする必要があります。 \\myserver\myshare

表 27. パラメーター (続き)

パラメーター	説明
/user *username*	保存するユーザー名を識別します。
/pw *password*	保存するパスワードを識別します。
/timeout *seconds*	保存する接続タイムアウトの値を指定します。デフォルトは 30 秒です。
/s	サイレント操作を有効にします。

操作が正常に終了したときの戻り値は **0** です。それ以外の場合、戻り値は **0** より大きい値です。

パラメーターを指定せずに MapDrv ユーティリティーを起動すると、ネットワーク共有、ユーザー名、およびパスワードのプロンプトがエンド・ユーザー宛てに出され、次に、指定されたクレデンシャルを使用して指定されたネットワーク共有に接続しようと試行します。

MapDrv ユーティリティーの使用

以下のセクションに **MapDrv** コマンドの使用方法を示します。

暗号化されたユーザー名とパスワードの文字列を表示する

次の関数を使用すると、暗号化されたユーザー名とパスワードが保存されている、ネットワーク共有情報のレジストリー・キーを表示します。/display 関数を使用しても、ユーザー名とパスワードをレジストリーに保存することはありません。ユーザーは、暗号化されたユーザー名とパスワードを該当のレジストリー・キーにコピーする必要があります。

```
mapdrv /view <app id> /user <username> /pwd <password>
```
例:

```
mapdrv /view TVSUAPPLICATION /user temp/pwd password

app id: TVSUAPPLICATION
user: temp
pwd: password
```
このコマンドは、認証付きの UNC パスでリポジトリーをセットアップするために、暗号化されたユーザー名とパスワードを取り込みます。

ThinkVantage アプリケーションのネットワーク共有情報の保存

次の関数は、ネットワーク共有情報を <tvt> を使用してレジストリーに保存し、メインの MapDrv レジストリー・キーからサブキーを定義します。

```
mapdrv /store <app id> /unc <sharename> /user <username> /pwd <password>
[/timeout <seconds>]
```
これにより、UNC、ユーザー名、およびパスワードの値がレジストリーに設定されます。

ThinkVantage アプリケーションのネットワーク共有への接続

次のように、指定した ThinkVantage アプリケーションのネットワーク共有に接続します。

```
mapdrv /connect <app id> [ /s]
```
レジストリーの UNC、ユーザー名、およびパスワードの値を使用して共有に接続します。実際の接続 UNC は、NetPath 値の出力です。

ThinkVantage アプリケーションのネットワーク共有の接続

次のコマンドは、指定した ThinkVantage アプリケーションのネットワーク共有が、現在接続されている場合は切断します。

```
mapdrv /disconnect <app id>
```

ネットワーク接続を切断するには a `net use /d` [*NetPath stored in registry*] を実行します。

付録 B 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、または サービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、Lenovo 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

Lenovo (United States), Inc.
1009 Think Place - Building One
Morrisville, NC 27560
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の稼働環境では、結果が異なる場合があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で 決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、 その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

商標

以下は、Lenovo Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Lenovo
Lenovo ロゴ
Rescue and Recovery
ThinkPad
ThinkVantage

Intel は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM
Lotus
Lotus Notes

Microsoft、Active Directory、Internet Explorer、Windows、および Windows Vista は、Microsoft グループの商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。